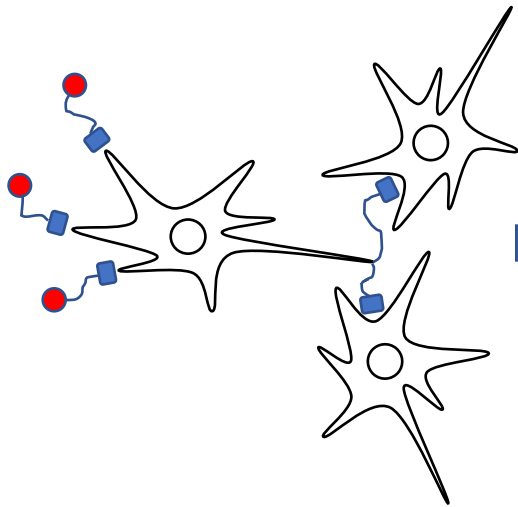


**人工知能
(畳込みニューラルネットワーク)
の医療への応用**

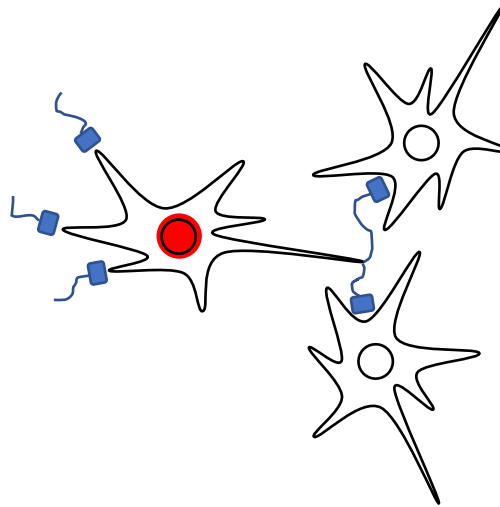
**立命館大学 理工学部 電子情報工学科
中山 良平**

人間の脳

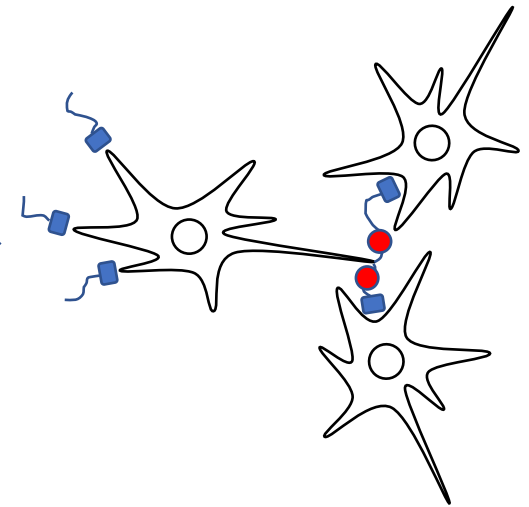
他の神経細胞から
興奮状態（信号）
が伝達



細胞体の電位レベル
(\equiv 信号の和)
が上昇, 閾値と比較



閾値より大のとき,
発火し, 隣の
ニューロンへ伝達

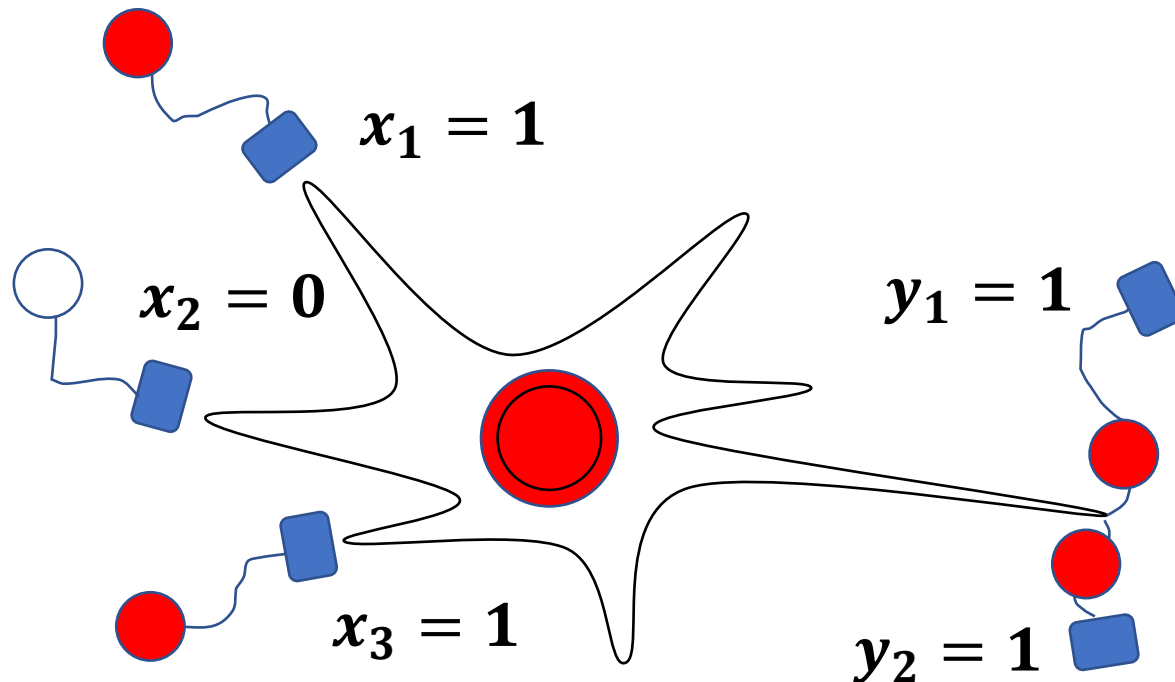


入出力信号を数学的に表現

- 入力（出力）信号は「あり」「なし」の2情報で表現可

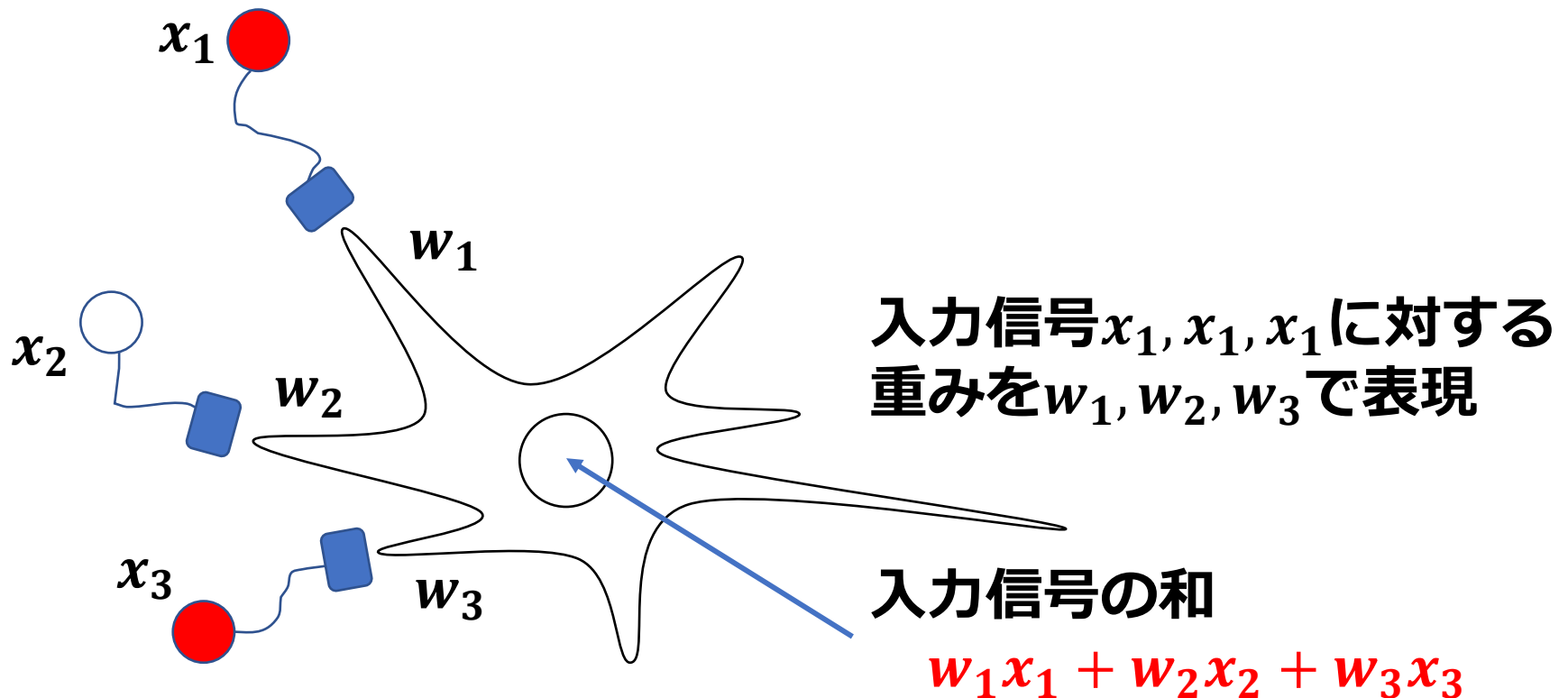
入力信号なし : $x = 0$
入力信号あり : $x = 1$

出力信号なし : $y = 0$
出力信号あり : $y = 1$



入力信号に対する重みを数学的に表現

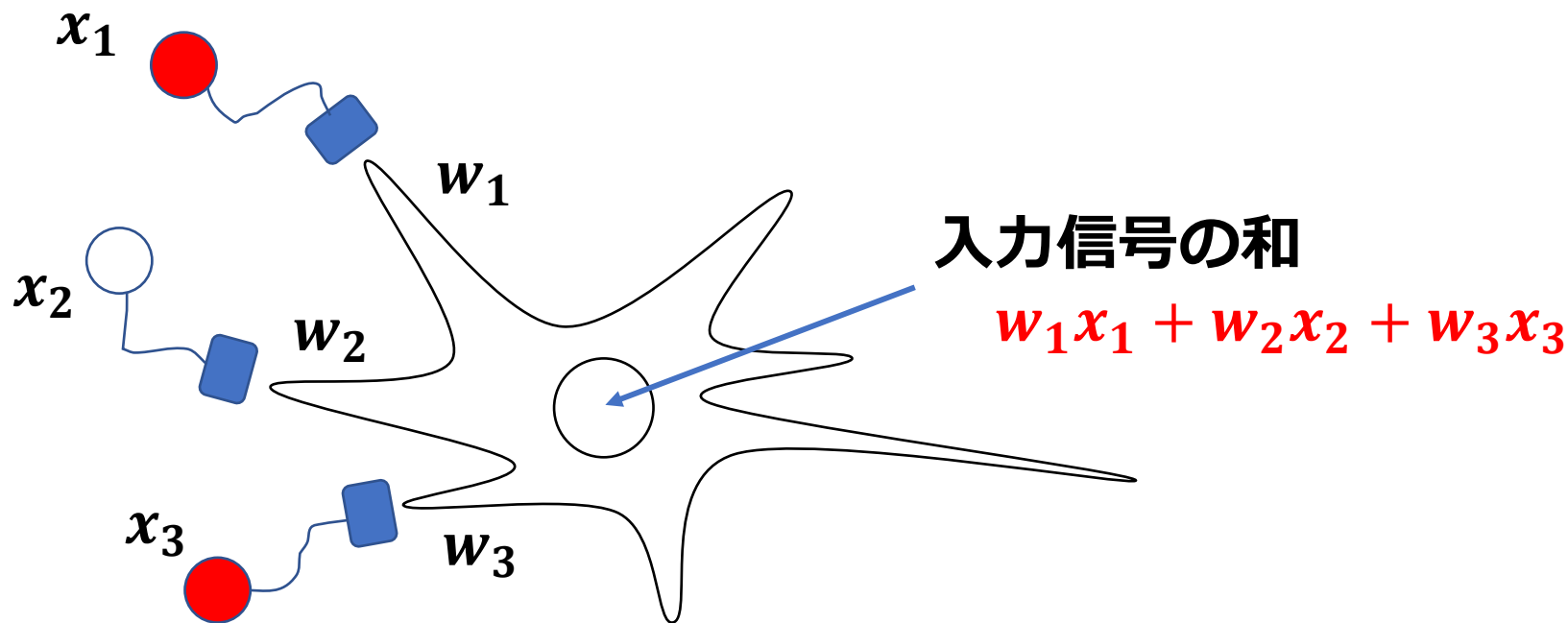
- ニューロンの発火の有無は入力信号の和で判定
- 和のとり方は単純でないはず！脳は重みを変えて処理



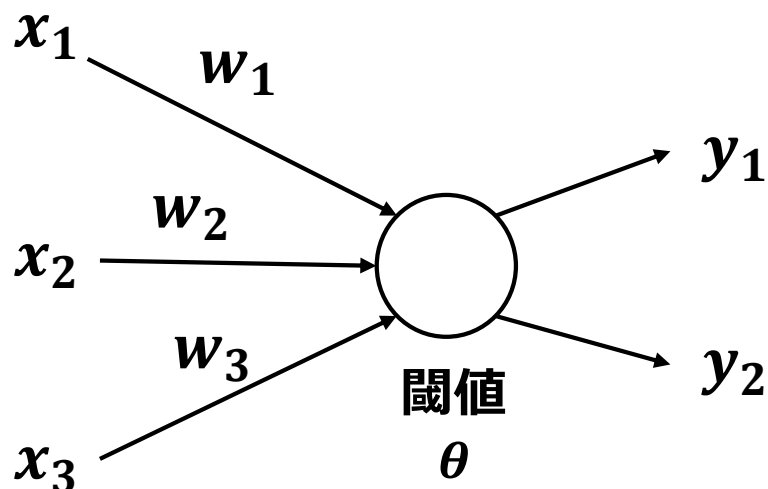
発火条件を数学的に表現

- ニューロンは入力信号の和が閾値を超えると発火
- 発火条件 (θ : ニューロン固有の閾値)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{出力信号なし}(y = 0) : w_1x_1 + w_2x_2 + w_3x_3 < \theta \\ \text{出力信号あり}(y = 1) : w_1x_1 + w_2x_2 + w_3x_3 \geq \theta \end{array} \right.$$



unitの出力値



unit (ニューロン)

生物学的ニューロン再現のため
単位ステップ関数 u により

$$y = u(w_1x_1 + w_2x_2 + w_3x_3 - \theta)$$

⇒ 出力値が0または1

⇒ 入力値も0または1

作成者が定義する関数 h で一般化

$$y = h(w_1x_1 + w_2x_2 + w_3x_3 - \theta)$$

⇒ 出力値が0,1と限らない

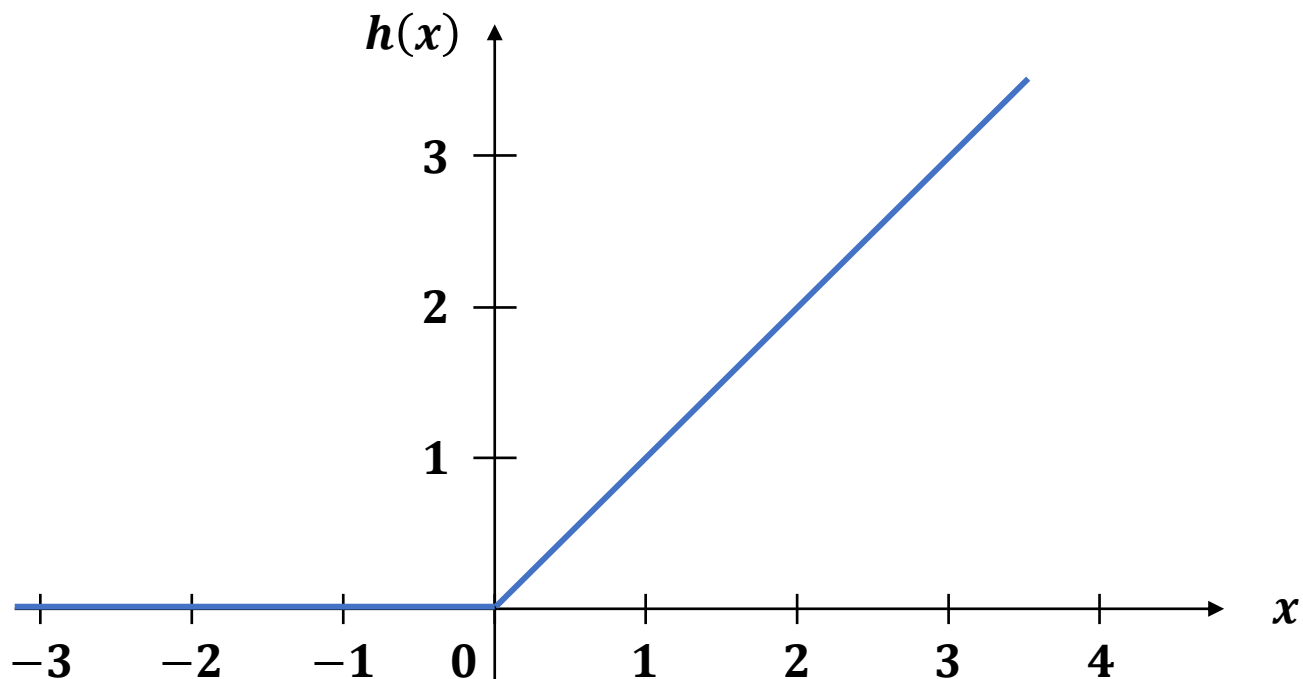
⇒ 入力値も0,1とは限らない



関数 h を**活性化関数**と呼ぶ

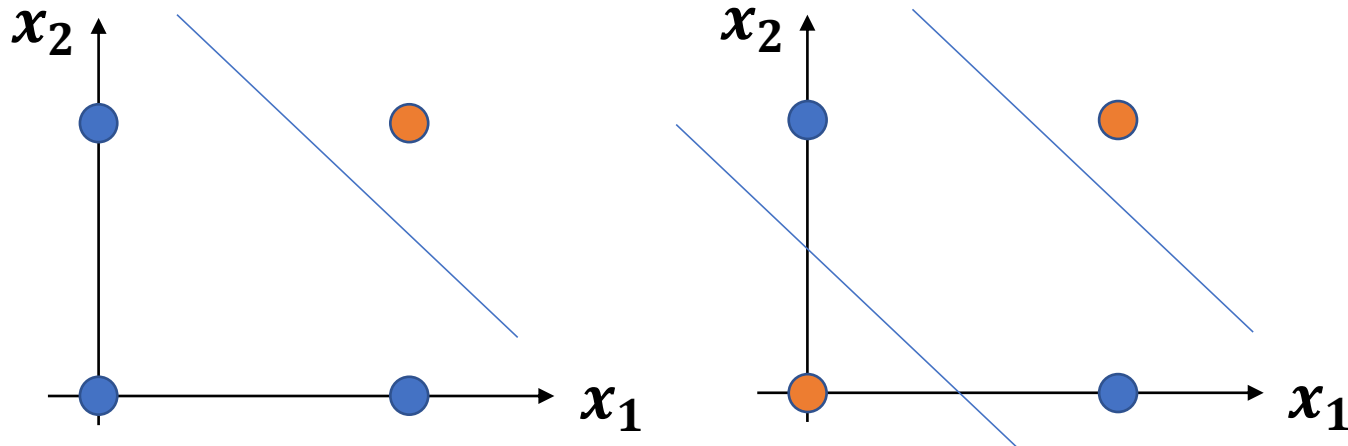
活性化関数

ReLU (Rectified Linear Unit) : $h(x) = \begin{cases} x & (x > 0) \\ 0 & (x \leq 0) \end{cases}$



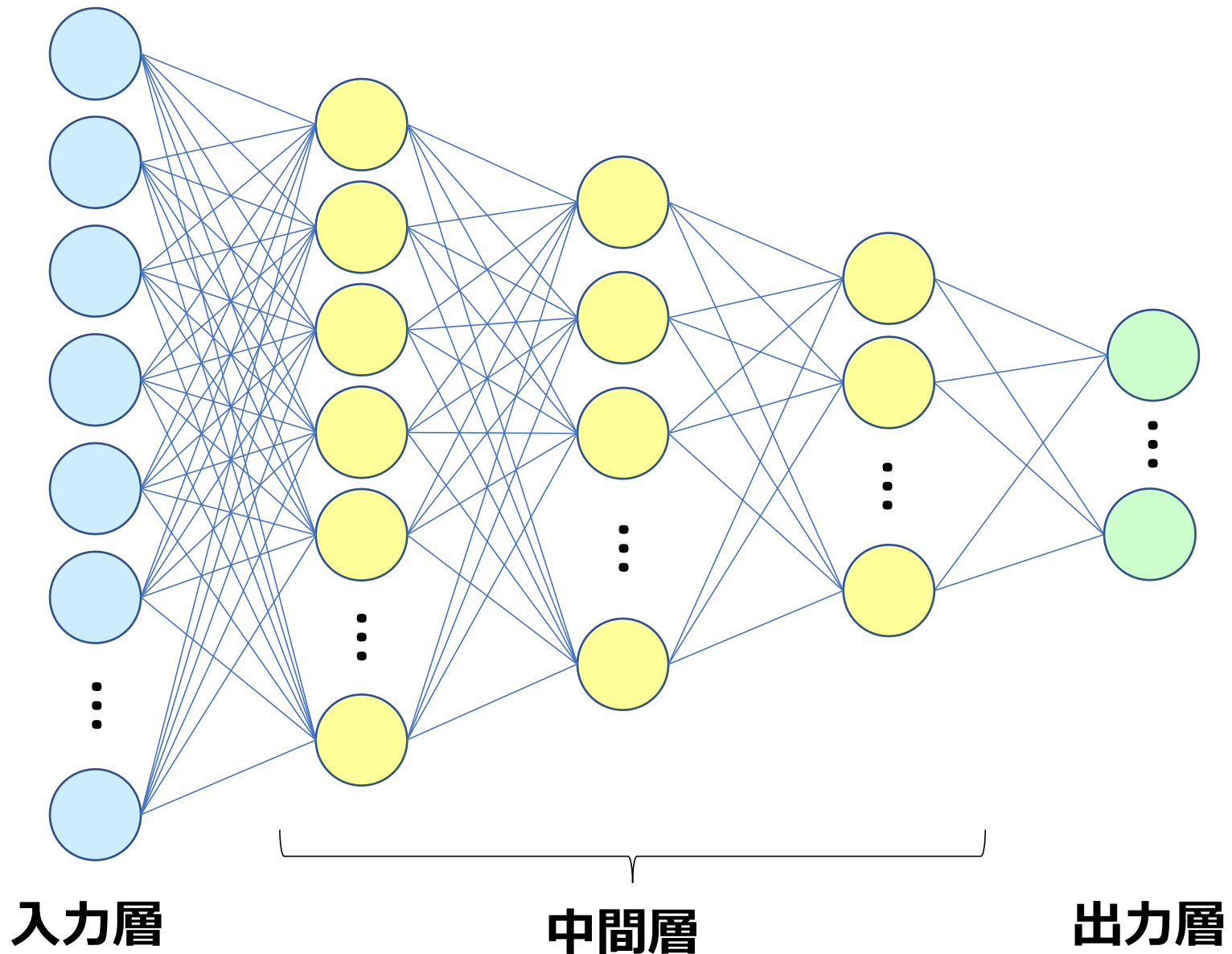
unitの問題

- 線形分離可能な問題にしか対応できない



⇒ 複数のunitを階層的に構成することで対応
⇒ ニューラルネットワーク
(ANN: Artificial Neural Network)

ニューラルネットワーク



入出力層の設計

入力画像

フィルタ処理による特徴強調

定量化
(特徴量)

教師信号

ボール
1

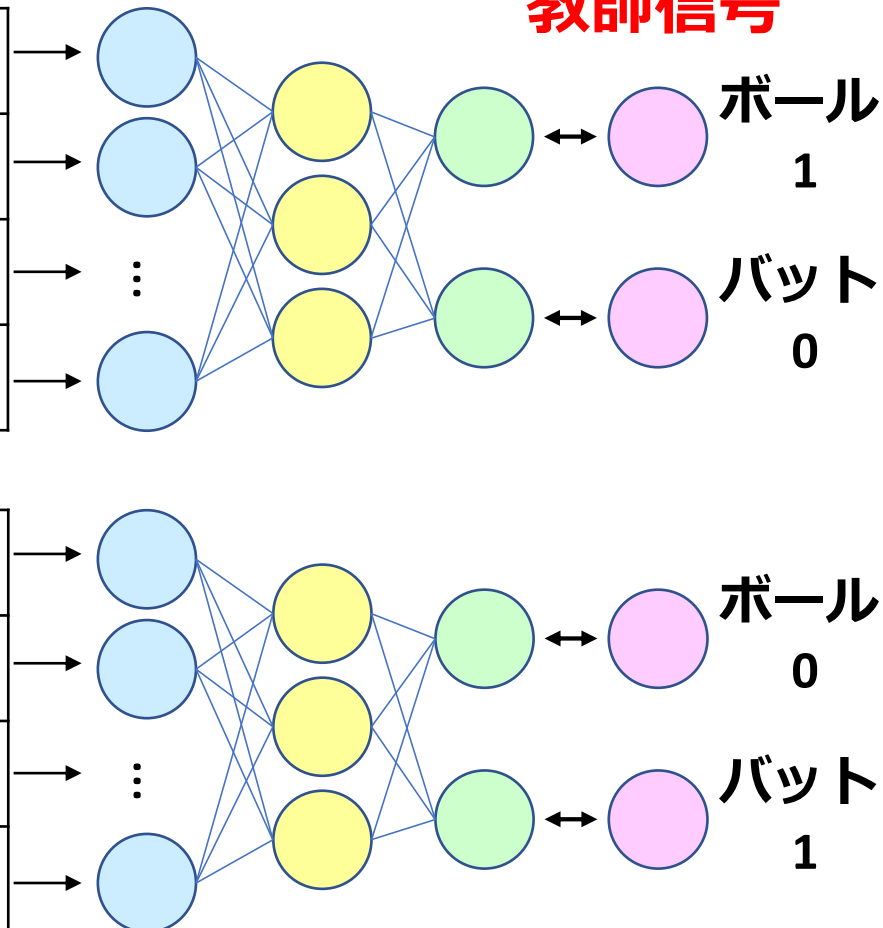
バット
0

ボール
0

バット
1

長軸	8.5
短軸	8.5
円形度	1.0
角数	0

長軸	50
短軸	5
円形度	0.2
角数	6

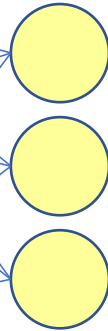


ニューラルネットワークの学習

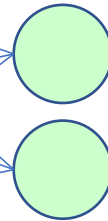
入力層



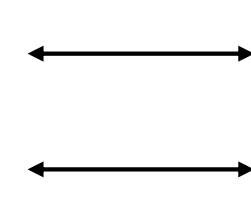
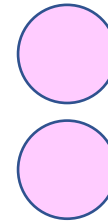
中間層



出力層



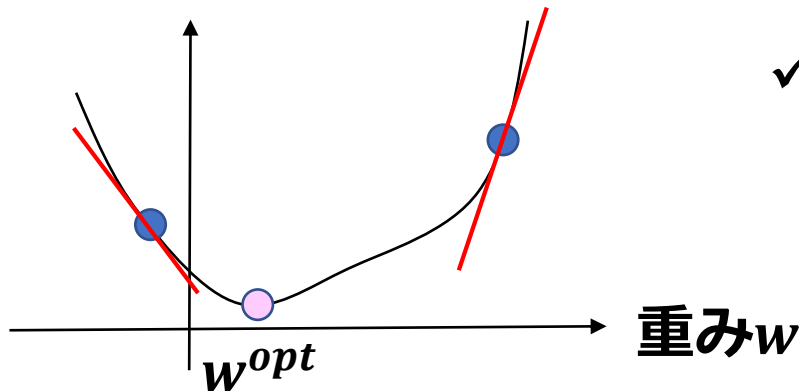
教師信号



誤差逆伝播法

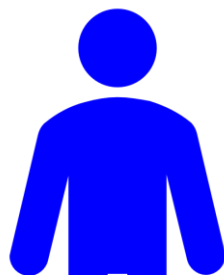
出力と教師信号の誤差を各層に逆伝播し，重みを繰り返し更新

損失関数



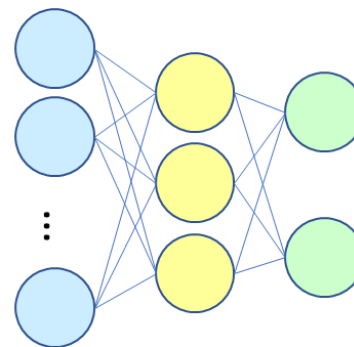
- ✓ 損失関数を微分し，重みの更新方向を決定
- ⇒ 微分値0で，weightの更新終了

従来のニューラルネットワーク



長軸	8.5
短軸	8.5
円形度	1.0
角数	0

中間層数：1~3



入力

特徴抽出

定量化

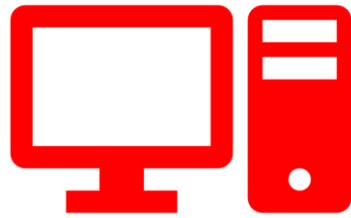
分類

出力

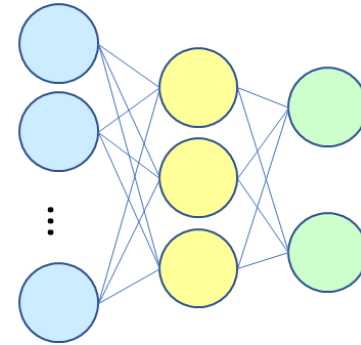
人間が教え込む型ニューラルネットワーク

データに適した特徴の違いを見つけ、
特徴を正確に定量化する手法を定義することが重要

畳み込みニューラルネットワーク



特徴抽出部分もデータから学習



入力

特徴抽出

定量化

分類

出力

勝手に学ぶ型ニューラルネットワーク

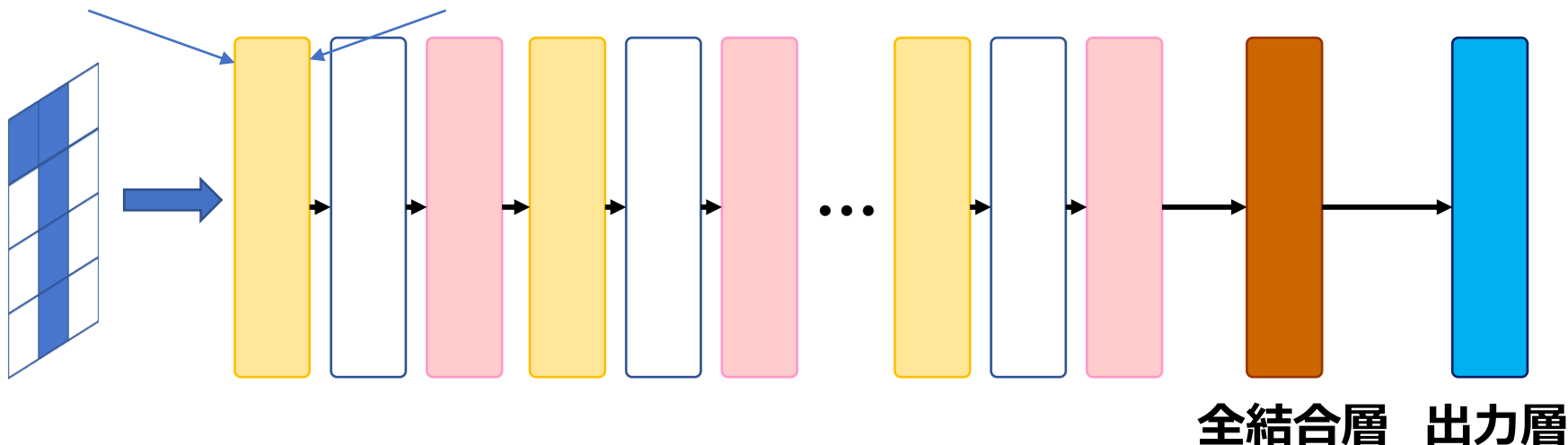
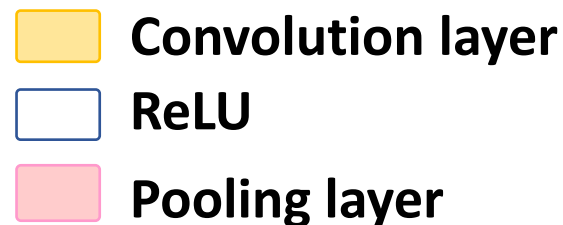
Big data と computer の性能向上で実現

畳み込みニューラルネットワーク

- CNNはANNに畳み込み（convolution）層とプーリング（pooling）層が加わったもの
- CNNは2次元データを2次元データとして出力
⇒ 画像などの形状を有したデータを正しく理解できる（可能性がある）

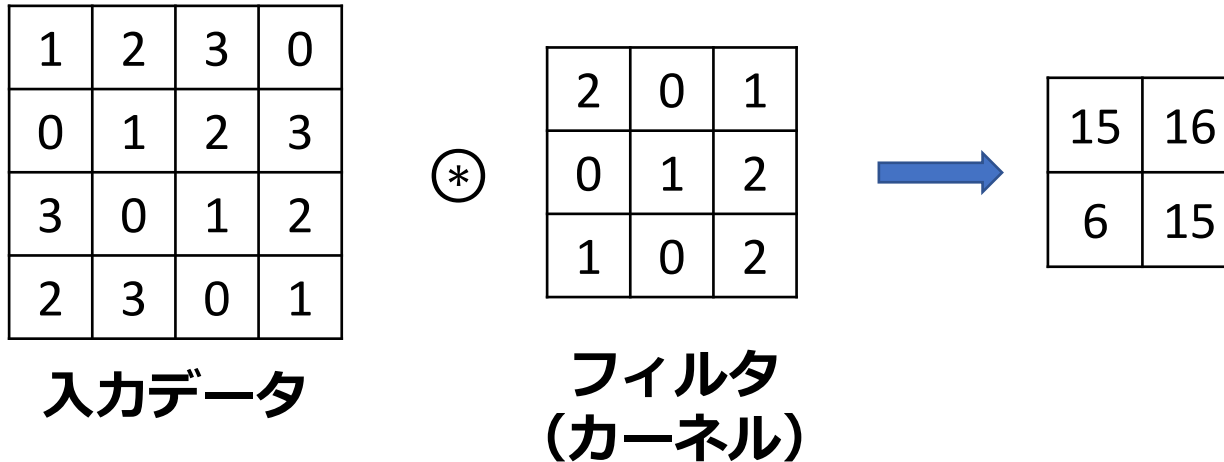
特徴マップ

入力特徴マップ 出力特徴マップ



畳み込み層

- 畳み込み演算（フィルタ演算）



- 入力データに対し、フィルタのウィンドウを一定の間隔でスライドさせながら適用
- フィルタの要素と入力の対応する要素を乗算し、その和を求める ⇒ 積和演算
- CNNではフィルタの要素がweightに対応

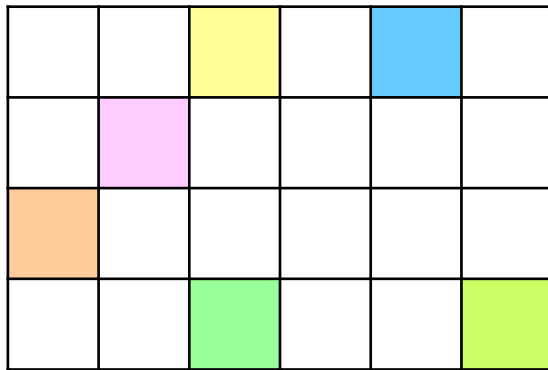
プーリング層

特徴マップを縮小（次元の低減）

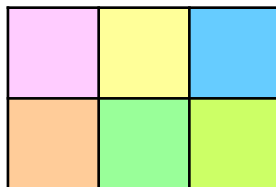
⇒ 幾何学的変化に対する不変性を獲得

⇒ 特徴の位置感度を低下させる役割

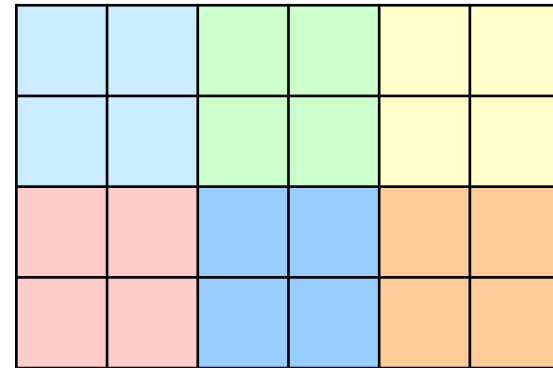
最大値プーリング



2×2の領域
での最大値



平均値プーリング



2×2の領域
での平均値



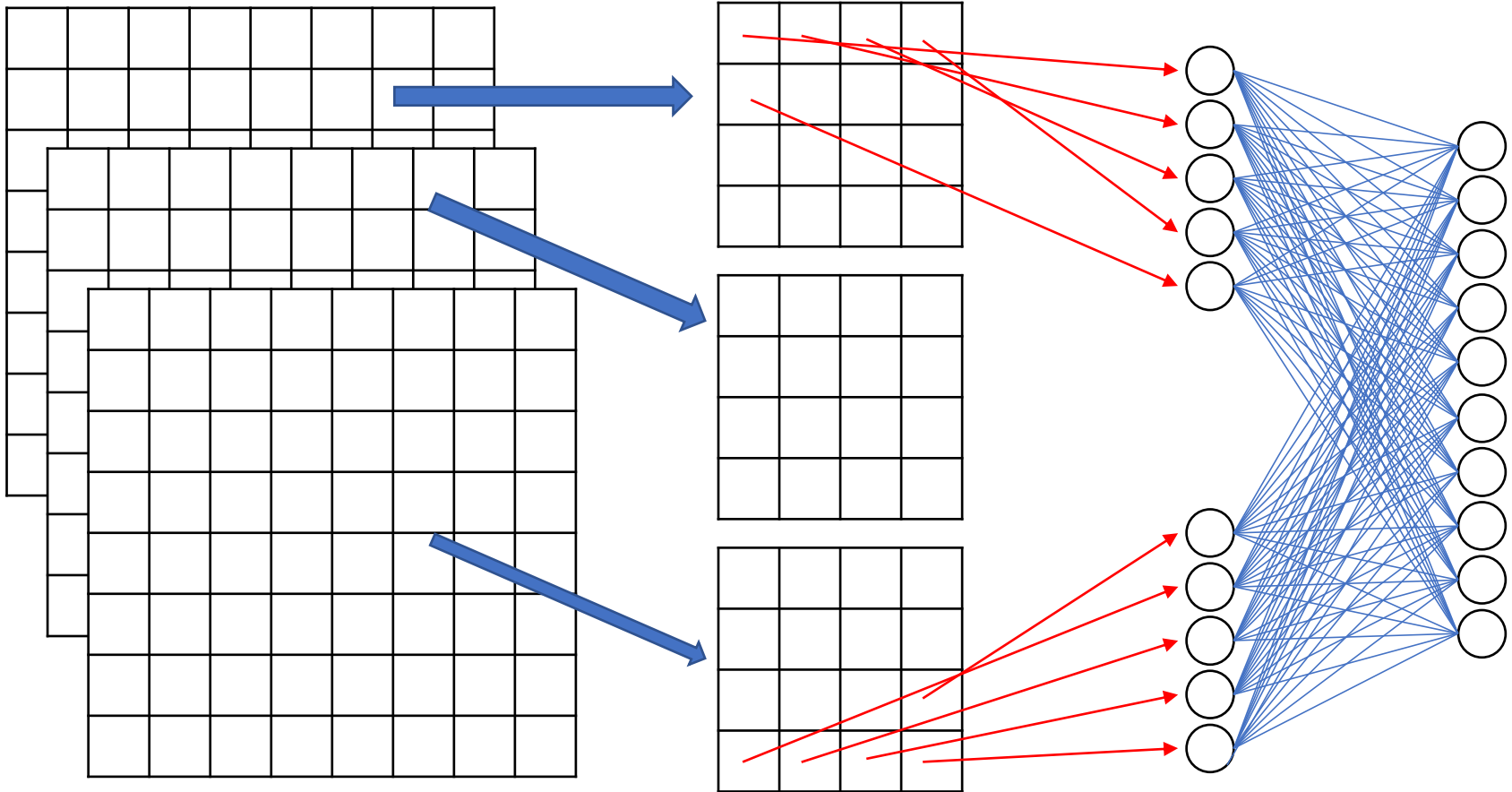
全結合層

畳み込み層またはプーリング層の出力である
2次元特徴マップを1次元に展開

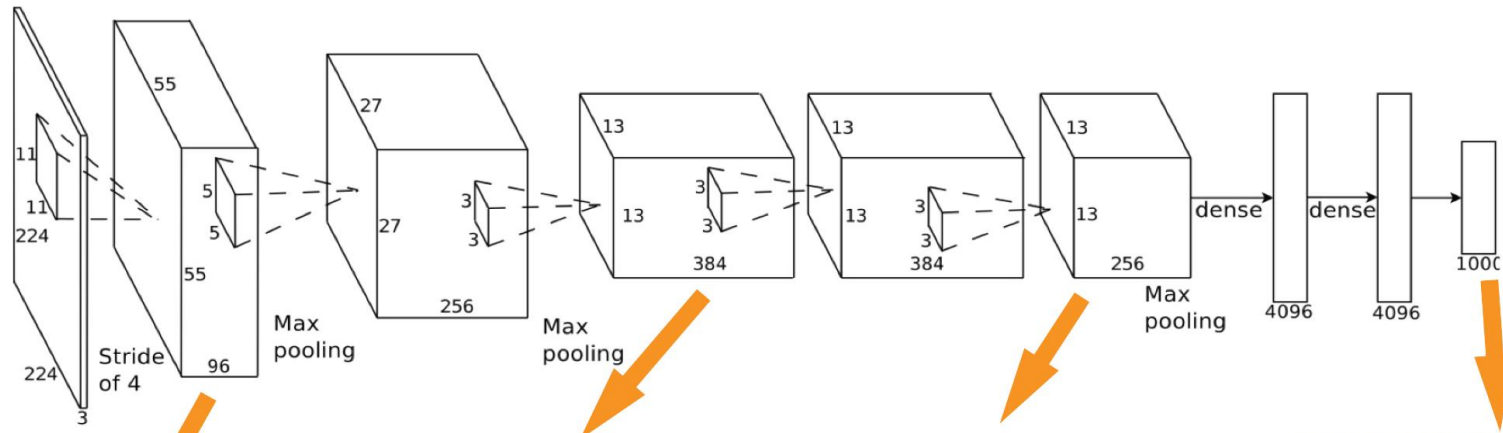
畳み込み層

プーリング層

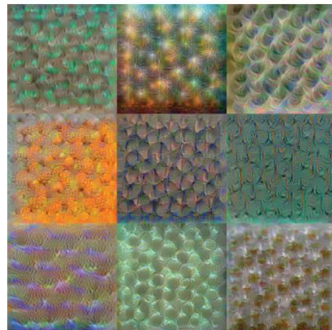
全結合層



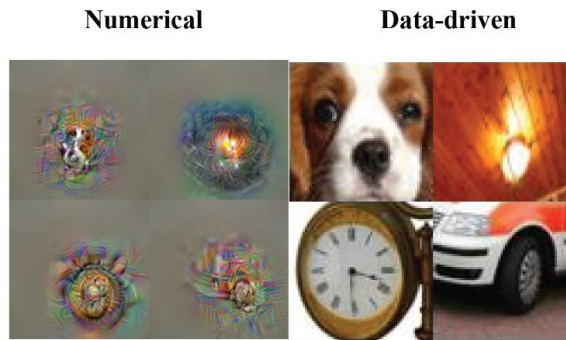
階層構造による情報抽出



Conv 1: Edge+Blob



Conv 3: Texture

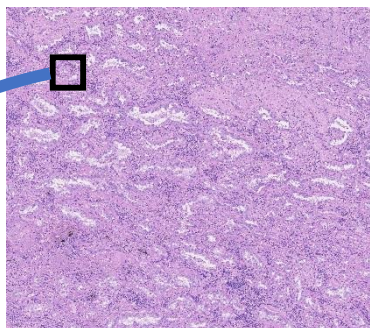


Conv 5: Object Parts



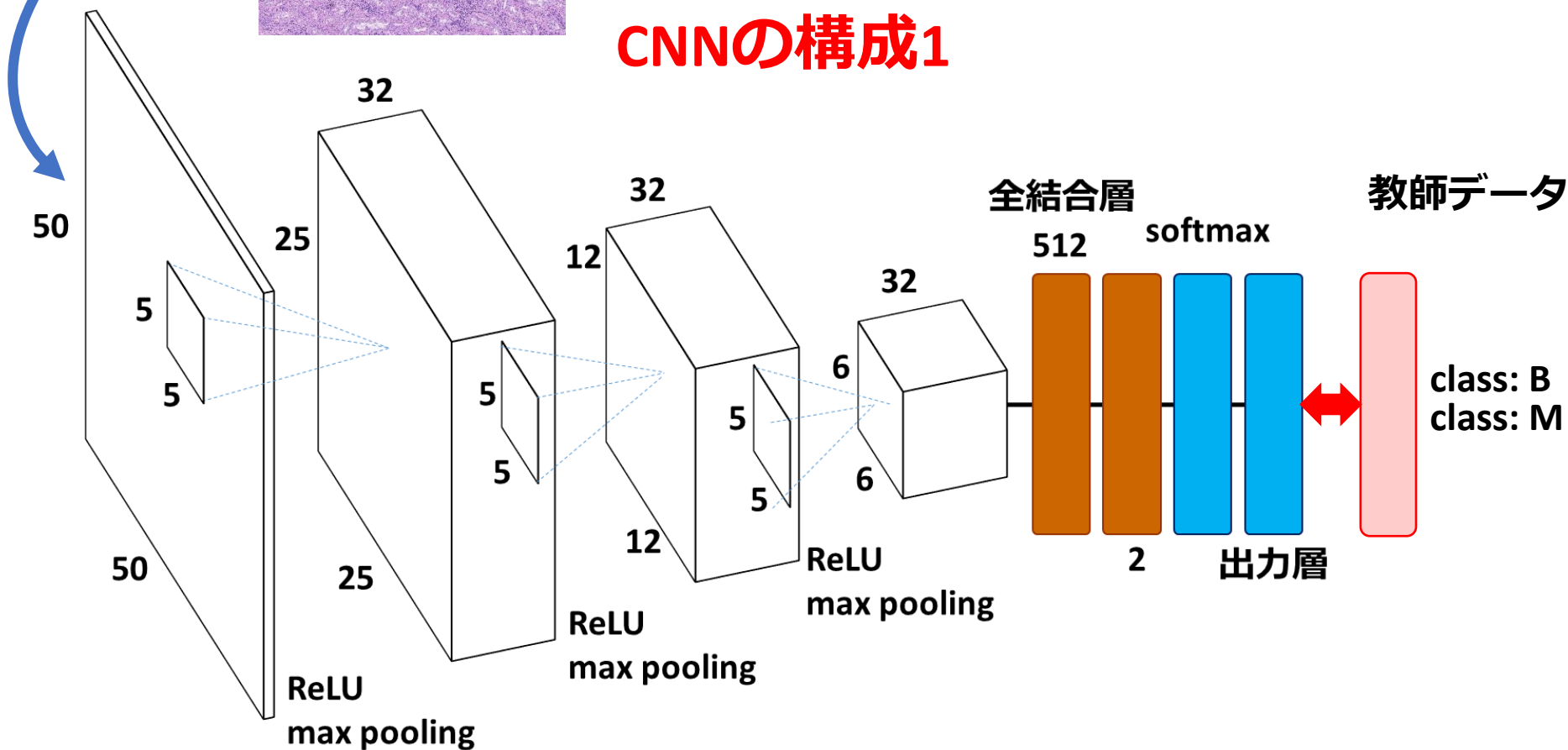
Fc8: Object Classes

病理組織像の良悪性自動分類



良性的ROI : 32,484
悪性的ROI : 33,789

CNNの構成1



CNNの構成1

C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\CNN_pathology1014.m*

エディター

パブリッシュ

表示

```
76 % Create A Convolutional Neural Network(CNN)
77 % 入力層の定義
78 - inputLayer = imageInputLayer([ROI_size, ROI_size, nChannel]);
79
80 % 中間層の定義
81 - middleLayers = [
82     convolution2dLayer([5 5], 32)
83     reluLayer()
84     maxPooling2dLayer(2, 'Stride', 2)
85     convolution2dLayer([5 5], 32)
86     reluLayer()
87     maxPooling2dLayer(2, 'Stride', 2)
88     convolution2dLayer([5 5], 32)
89     reluLayer()
90     maxPooling2dLayer(2, 'Stride', 2) ];
```

01

スクリプト

行 150 列 9

CNNの構成1

```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\CNN_pathology1014.m
エディター  パブリッシュ  表示
92  % 出力層の定義
93  -  finalLayers = [
94      fullyConnectedLayer(512)
95      reluLayer()
96      fullyConnectedLayer(numImageCategories)
97      softmaxLayer
98      classificationLayer ];
99
100 % CNNの統合
101 -  layers = [
102      inputLayer
103      middleLayers
104      finalLayers
105  ];
106
スク립ト  行 150 列 9
```

出力層の設計

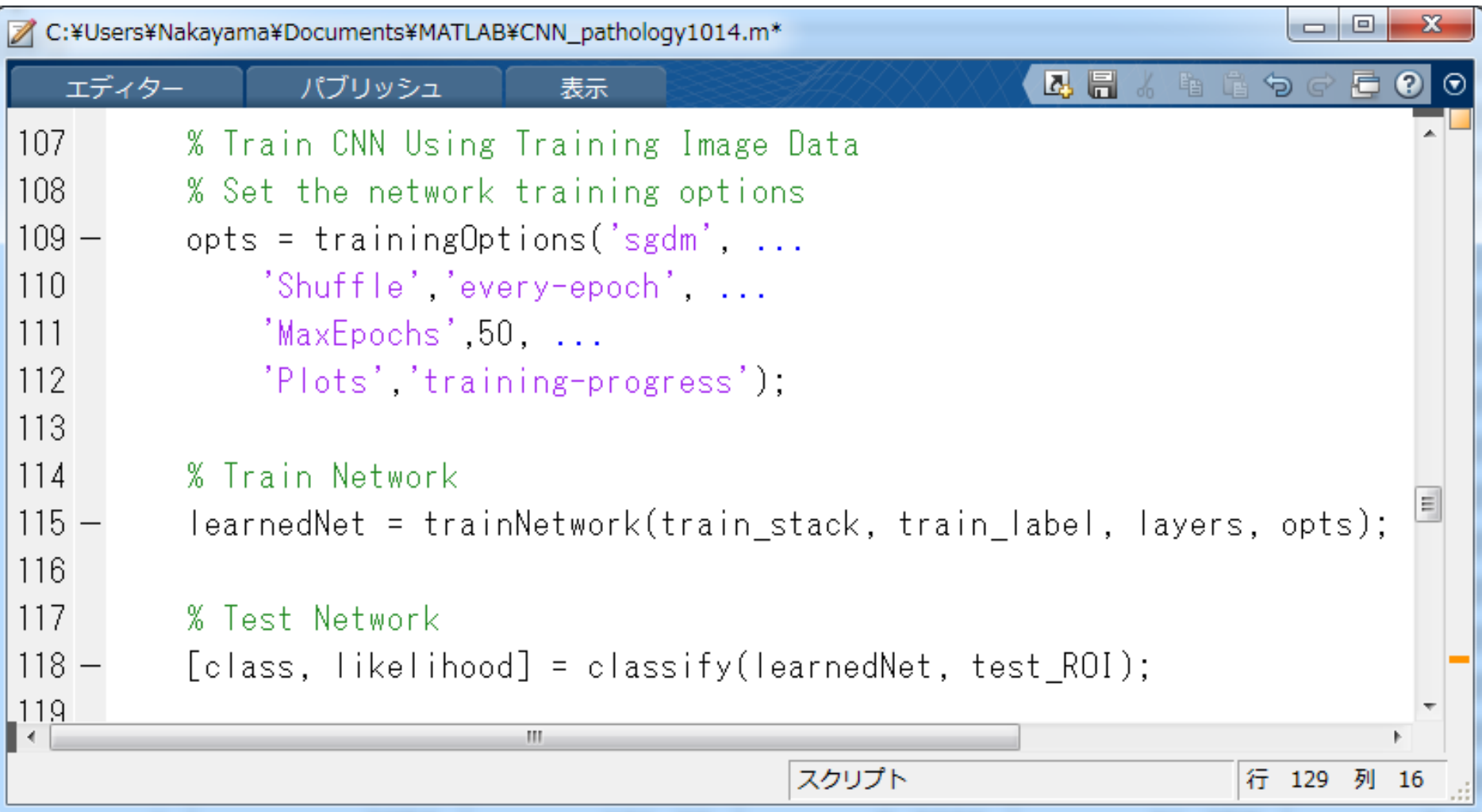
- ニューラルネットワークは**分類問題**と**回帰問題**で使用
 - 分類問題：データがどのクラスに属するか
 - 回帰問題：ある入力データから数値の予測
- 問題に応じ、出力層の活性化関数を変更する必要
 - ✓ 分類問題 ⇒ ソフトマックス関数
 - ✓ 回帰問題 ⇒ 恒等関数

- **ソフトマックス関数**

$$y_k = \frac{e^{a_k}}{\sum_{i=1}^n e^{a_i}}$$

- ソフトマックス関数の各出力は0～1の実数
- 出力の総和は1 ⇒ 確率と解釈可能

CNNの構成1



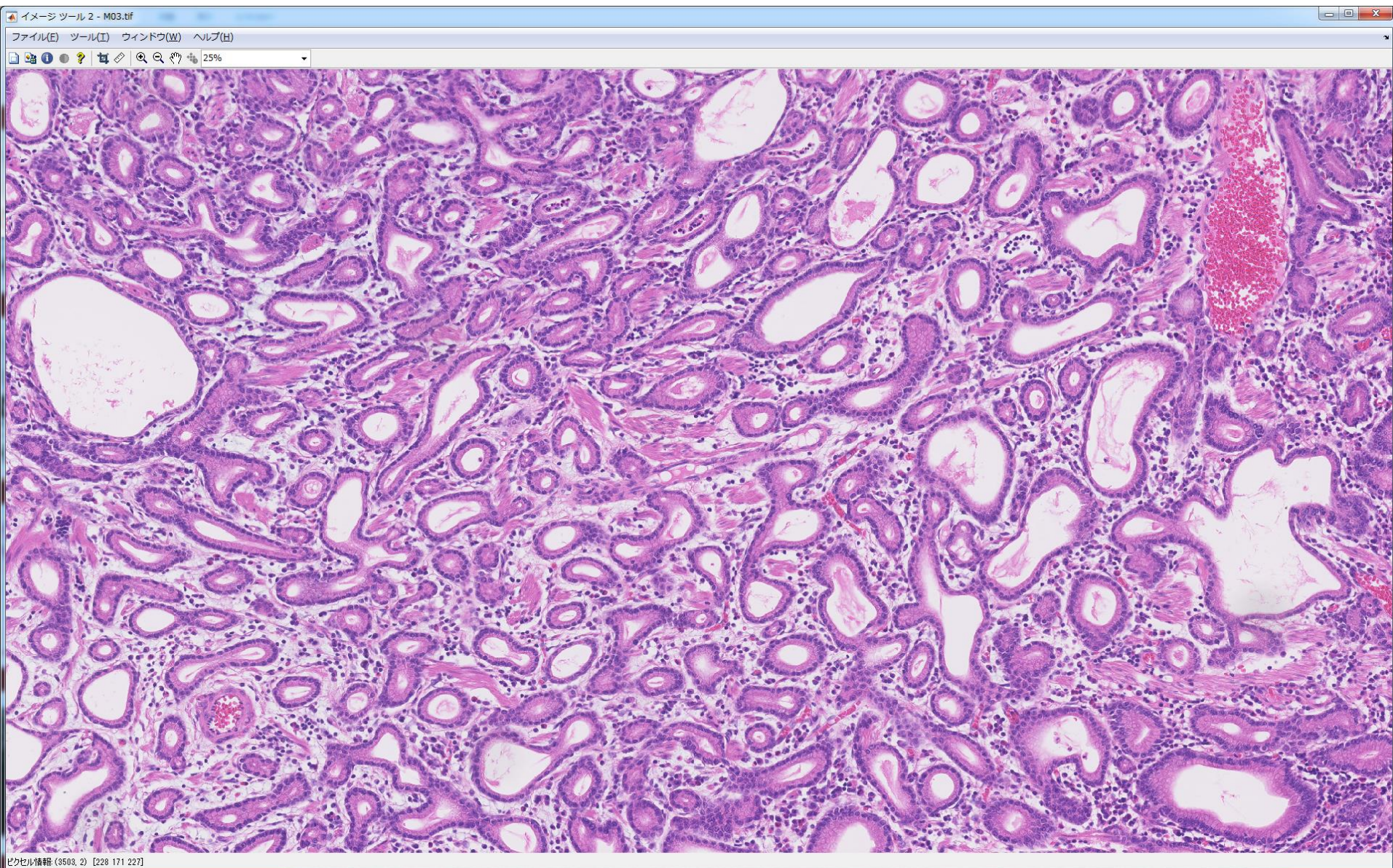
```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\CNN_pathology1014.m*
エディター   パブリッシュ   表示
107 % Train CNN Using Training Image Data
108 % Set the network training options
109 - opts = trainingOptions('sgdm', ...
110     'Shuffle','every-epoch', ...
111     'MaxEpochs',50, ...
112     'Plots','training-progress');
113
114 % Train Network
115 - learnedNet = trainNetwork(train_stack, train_label, layers, opts);
116
117 % Test Network
118 - [class, likelihood] = classify(learnedNet, test_ROI);
119
    スクリプト   行 129 列 16
```

CNNの学習

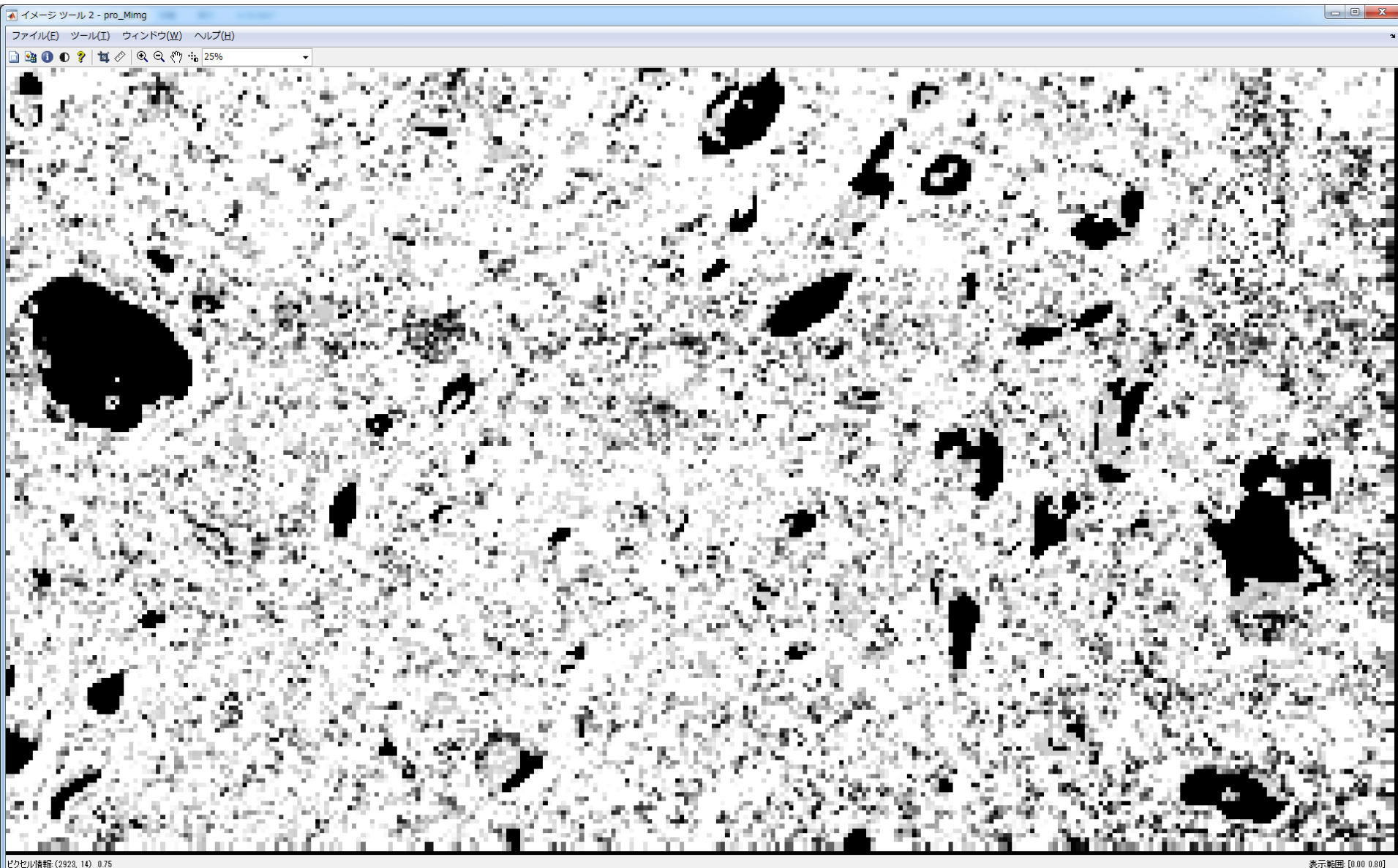
1. 学習データの中からランダムに1部データを選択
 - 選択された1部データを**ミニバッチ**と呼ぶ
 - ミニバッチの損失関数の値を減らすことを目的
2. 各weightパラメータにおける損失関数の勾配を計算
3. weightパラメータを勾配方向に微小量だけ更新
4. 1., 2., 3. の繰り返し
 - 1., 2., 3. を1回実施 = 学習回数1回
 - **epoch**: 全ての訓練データが使用された回数

Ex. 1,000の学習データに対し, 100個データを含むミニバッチで10回学習すると1 epoch

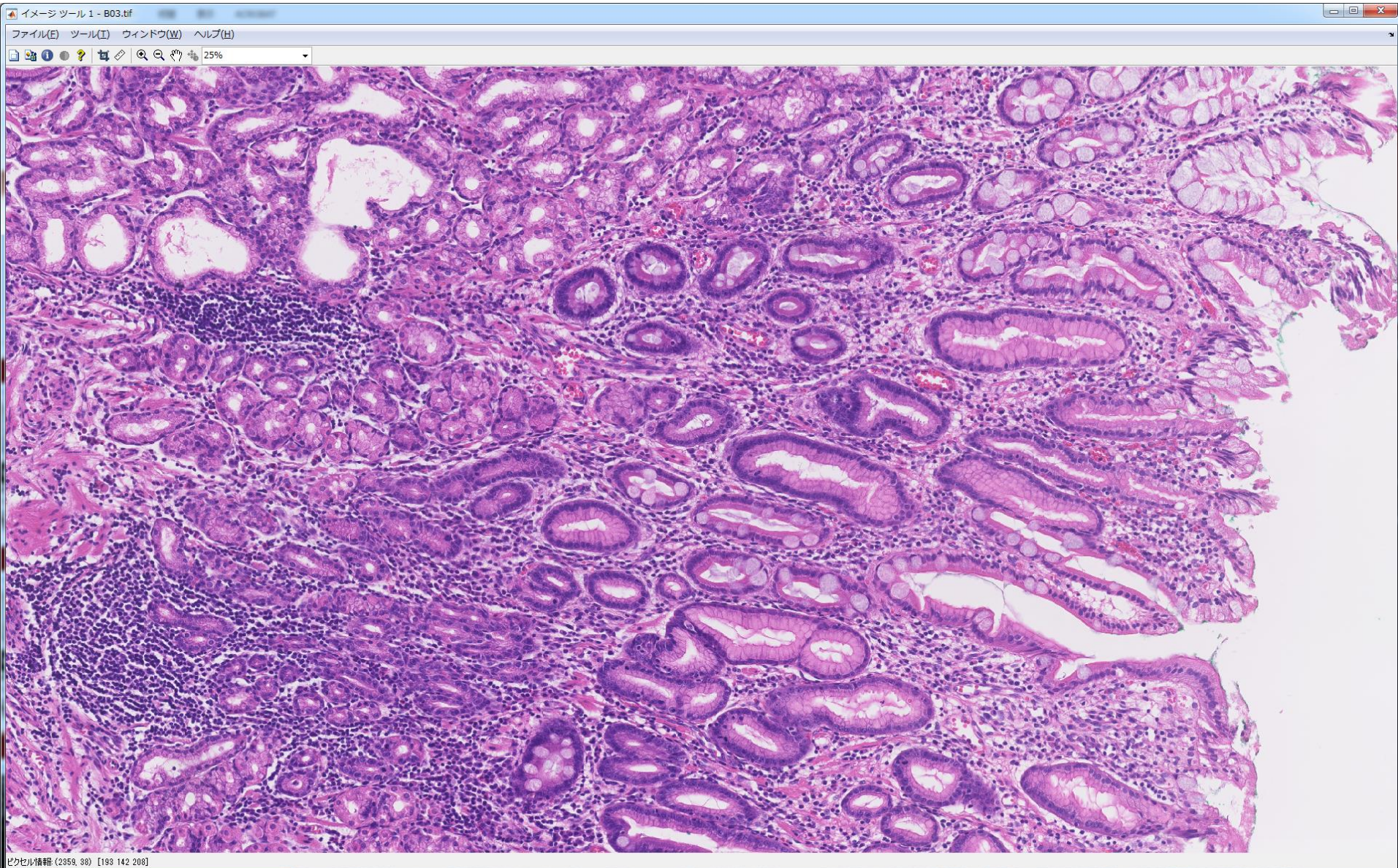
CNNの構成1



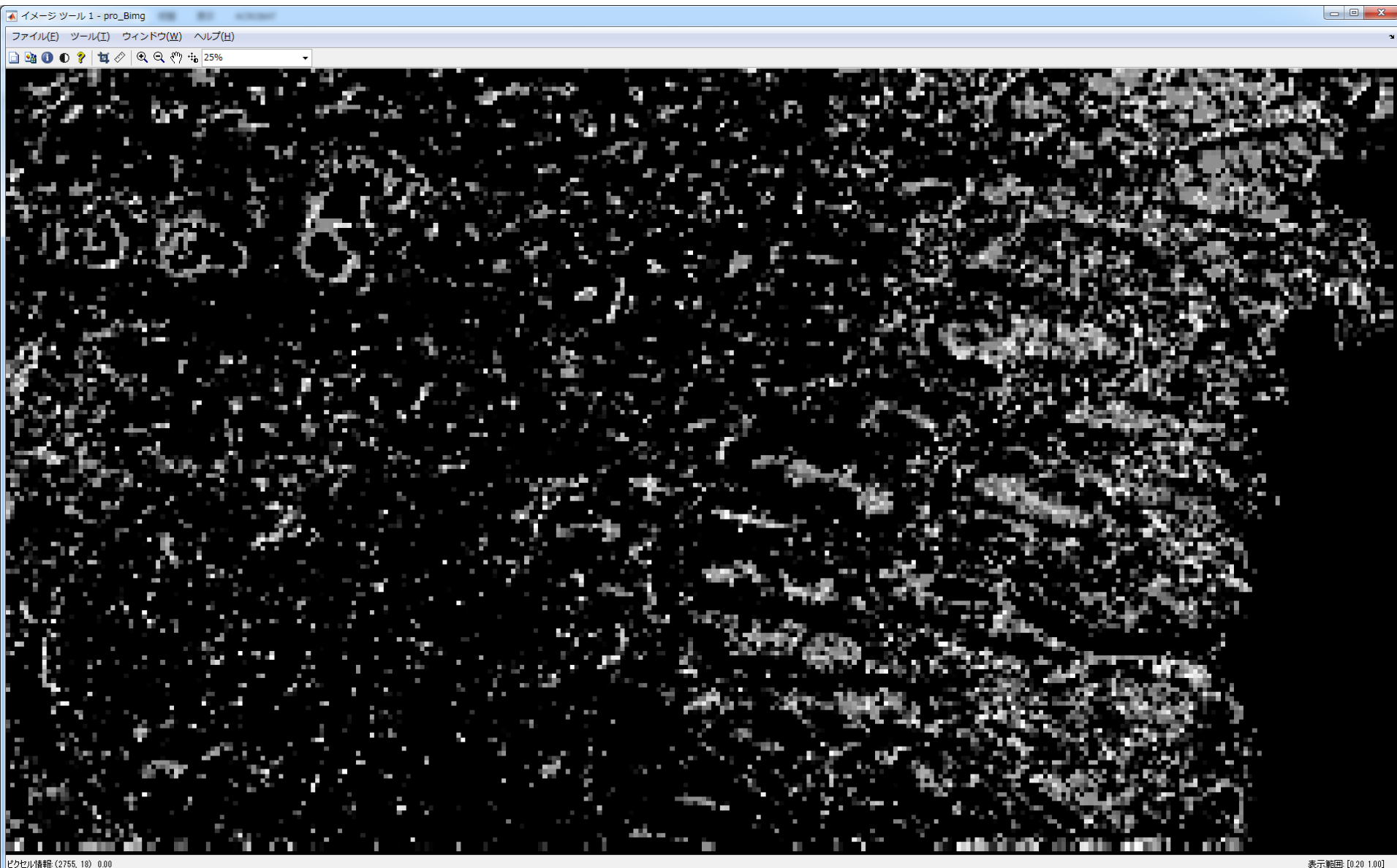
CNNの構成1



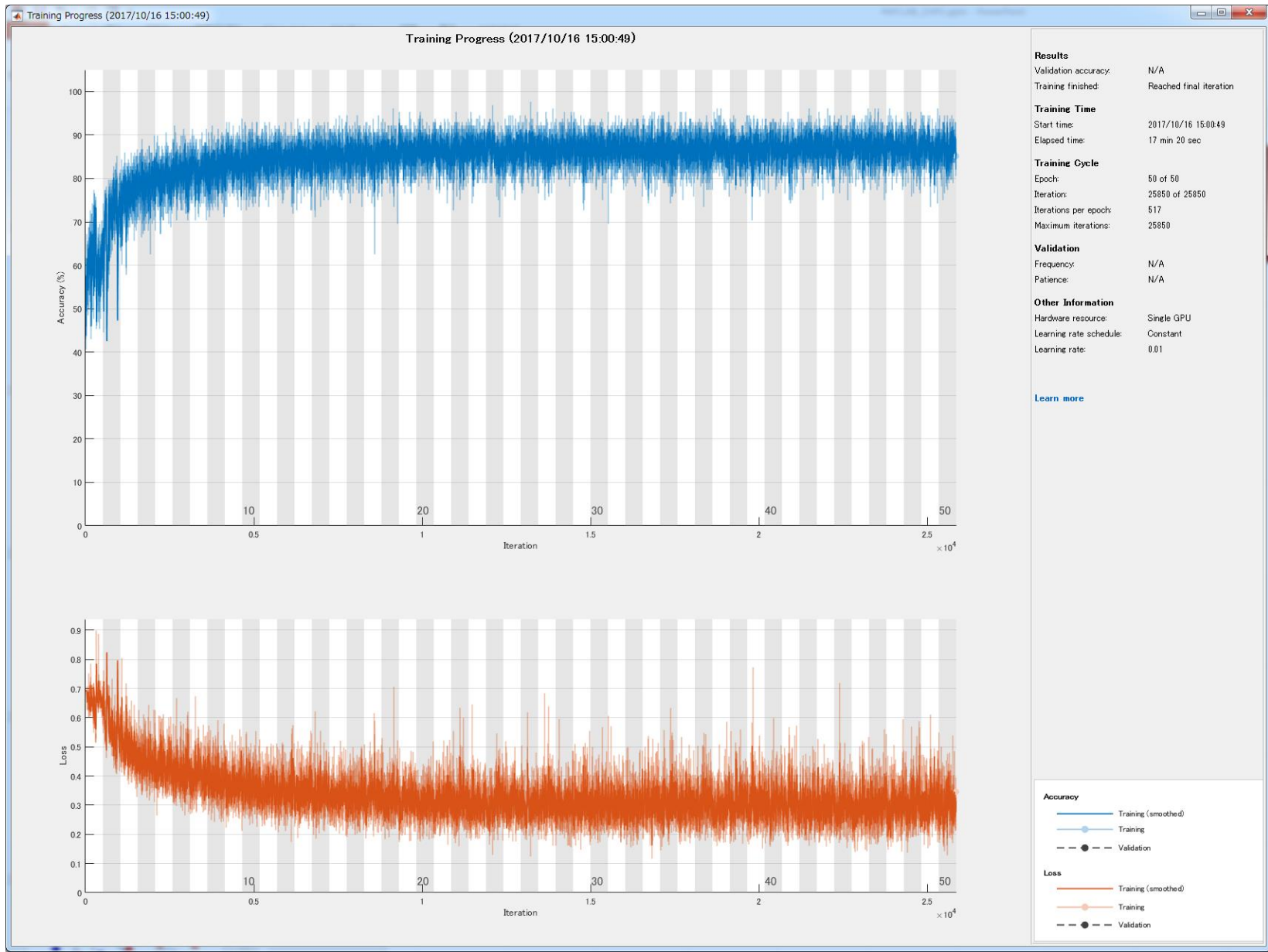
CNNの構成1



CNNの構成1

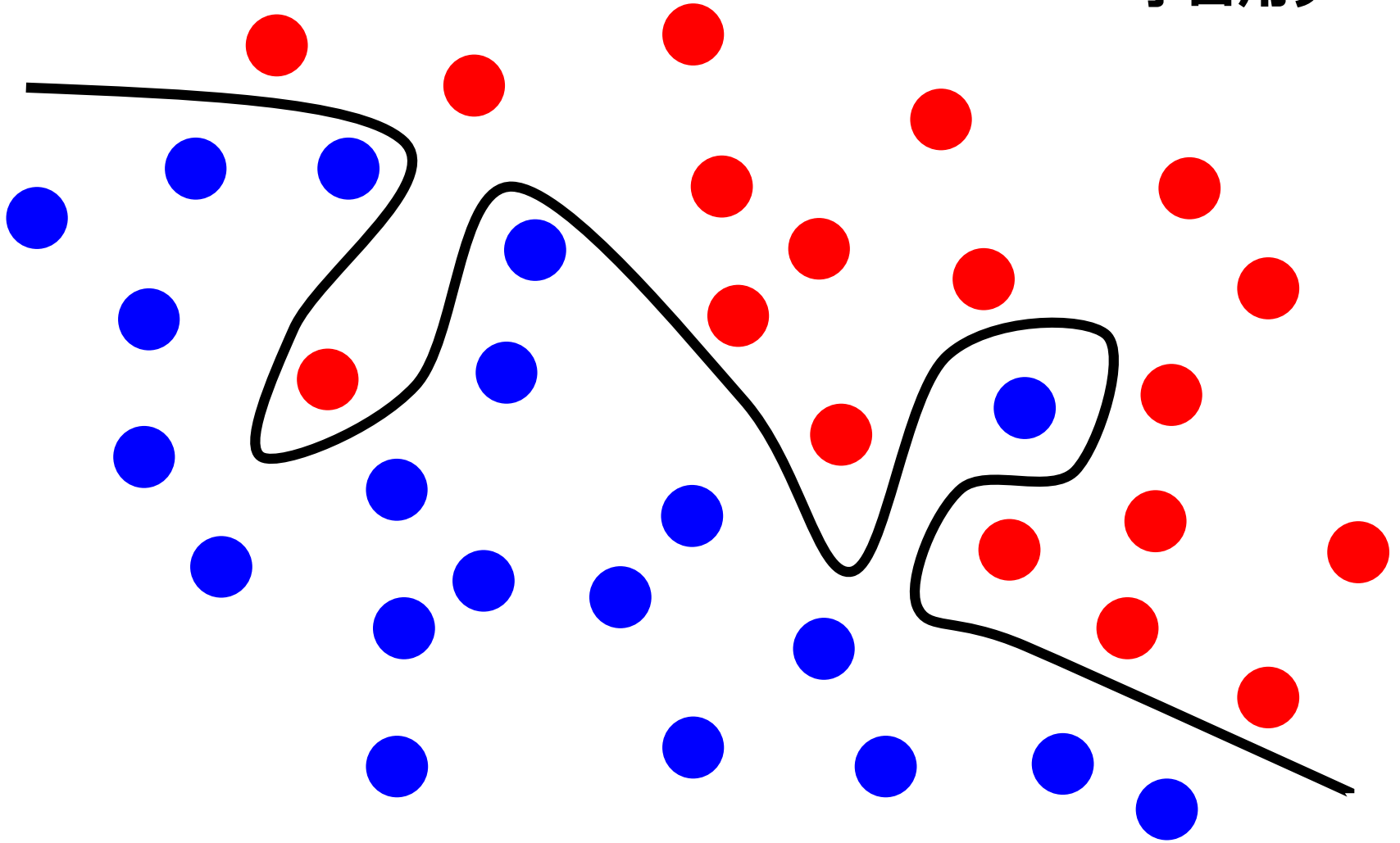


CNNの構成1



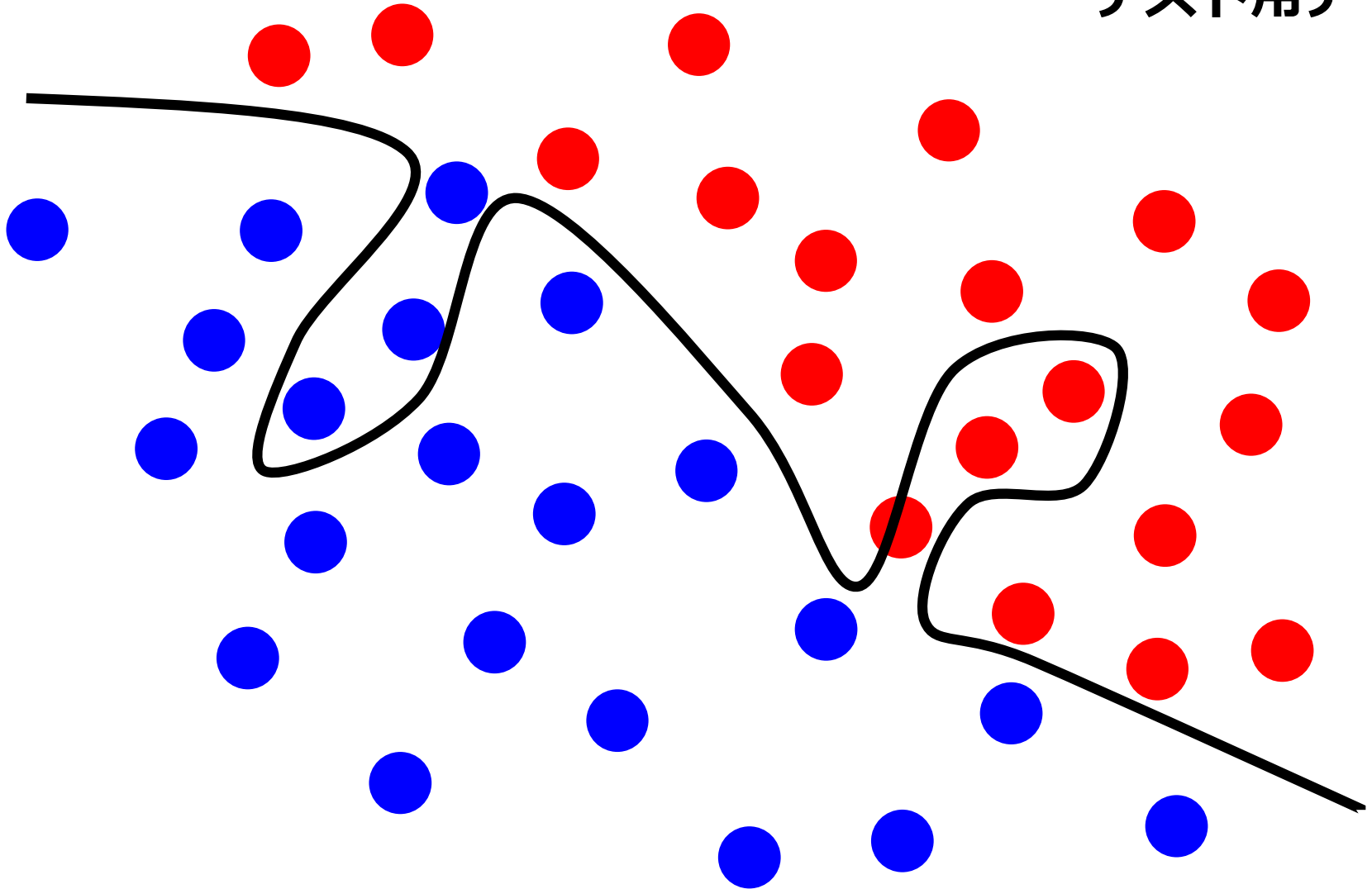
過学習

学習用データ



過学習

テスト用データ

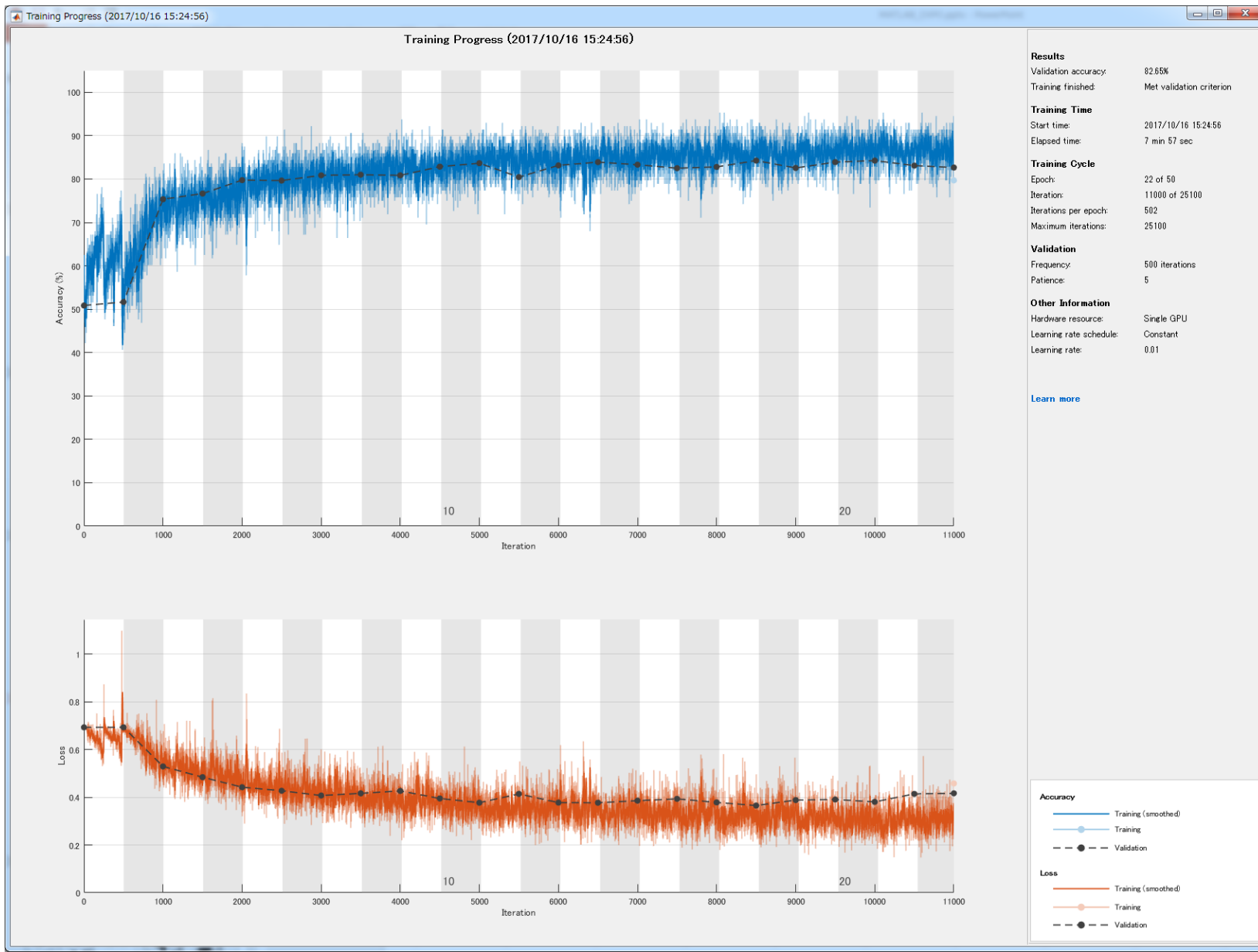


過学習の回避

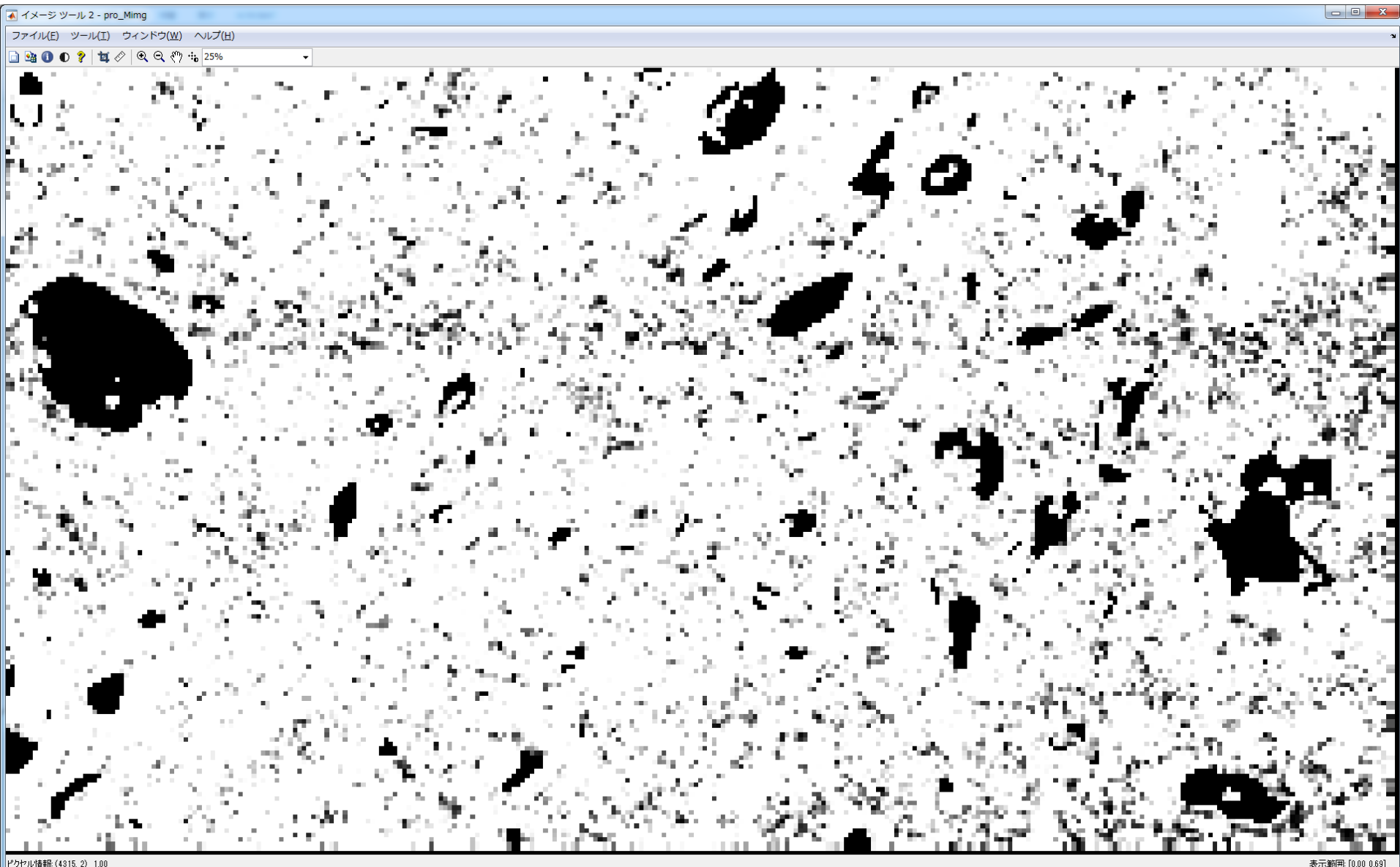
```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\CNN_pathology1014.m
エディター   パブリッシュ   表示
75   % 検証用データの作成
76   idx = randperm(size(train_stack,4),2000);
77   valImages = train_stack(:,:,,idx);
78   train_stack(:,:,,idx) = [];
79   valLabels = train_label(idx);
80   train_label(idx) = [];
81
スクリプト   行 101 列 40
```

```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\CNN_pathology1014.m
エディター   パブリッシュ   表示
118  % Train CNN Using Training Image Data
119  % Set the network training options
120  opts = trainingOptions('sgdm', ...
121      'Shuffle','every-epoch', ...
122      'MaxEpochs',50, ...
123      'Plots','training-progress', ...
124      'ValidationData', {valImages,valLabels},...
125      'ValidationFrequency',500);
スクリプト   行 81 列 1
```

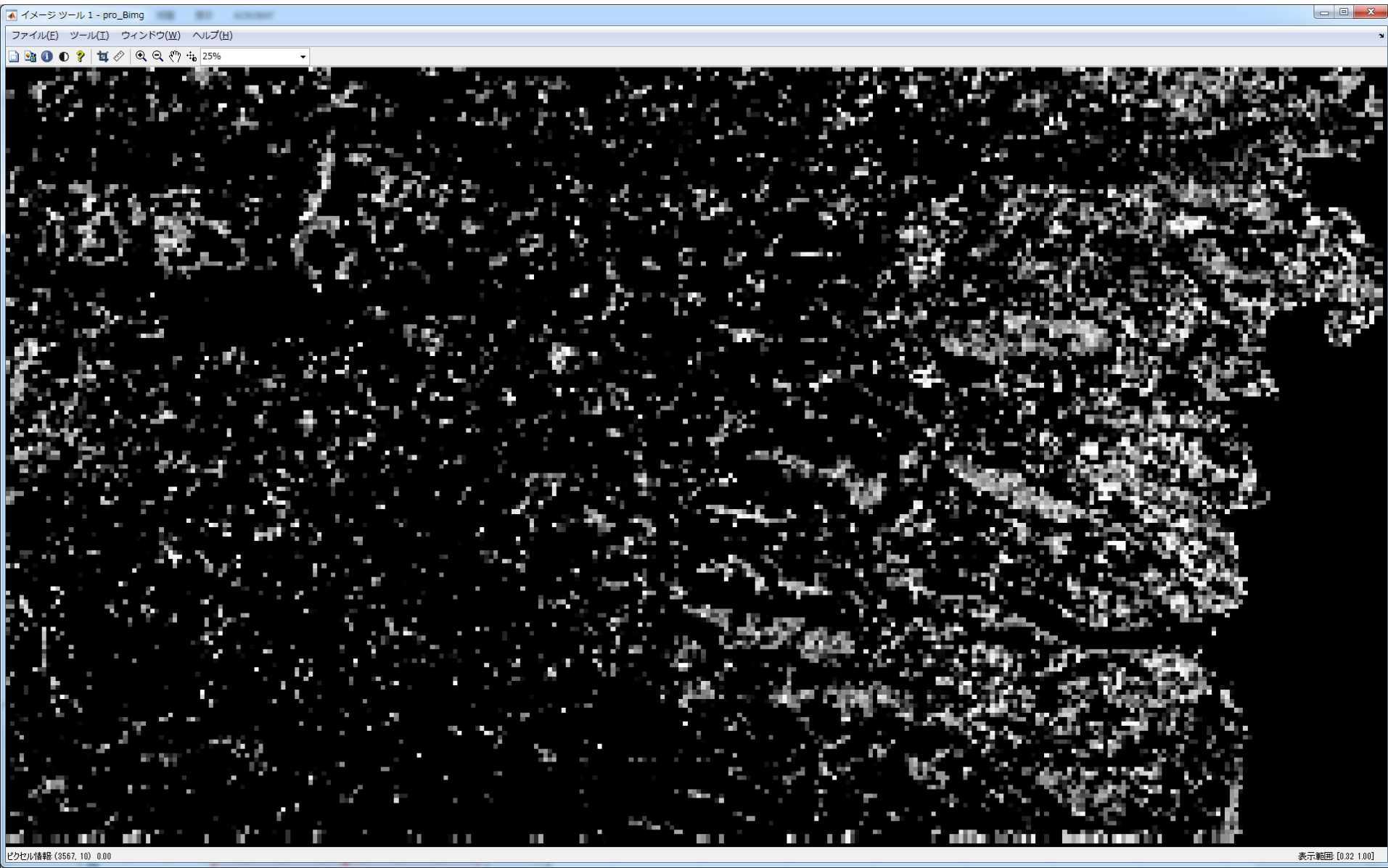

過学習の回避



過学習の回避



過学習の回避



CNNの構成

対象画像, 目的に最適なCNNの構成を見つけることが肝要

- ✓ 畳み込み層の数
- ✓ 各畳み込み層におけるフィルタサイズ, フィルタ数
- ✓ プーリングの有無
- ✓ 入力サイズ (ROIサイズ)
- ✓ 識別器の選択

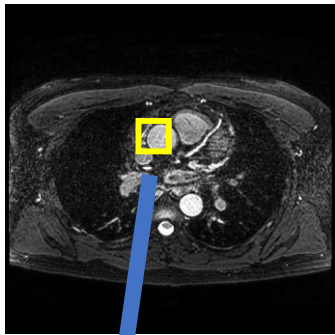
```
[class, likelihood] = classify(learnedNet, test_ROI);
```

↓ サポートベクターマシンへ

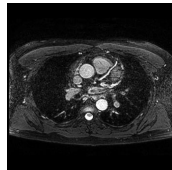
```
class = fitcsvm(learnedNet, test_ROI);
```

冠動脈MRAの高解像度化

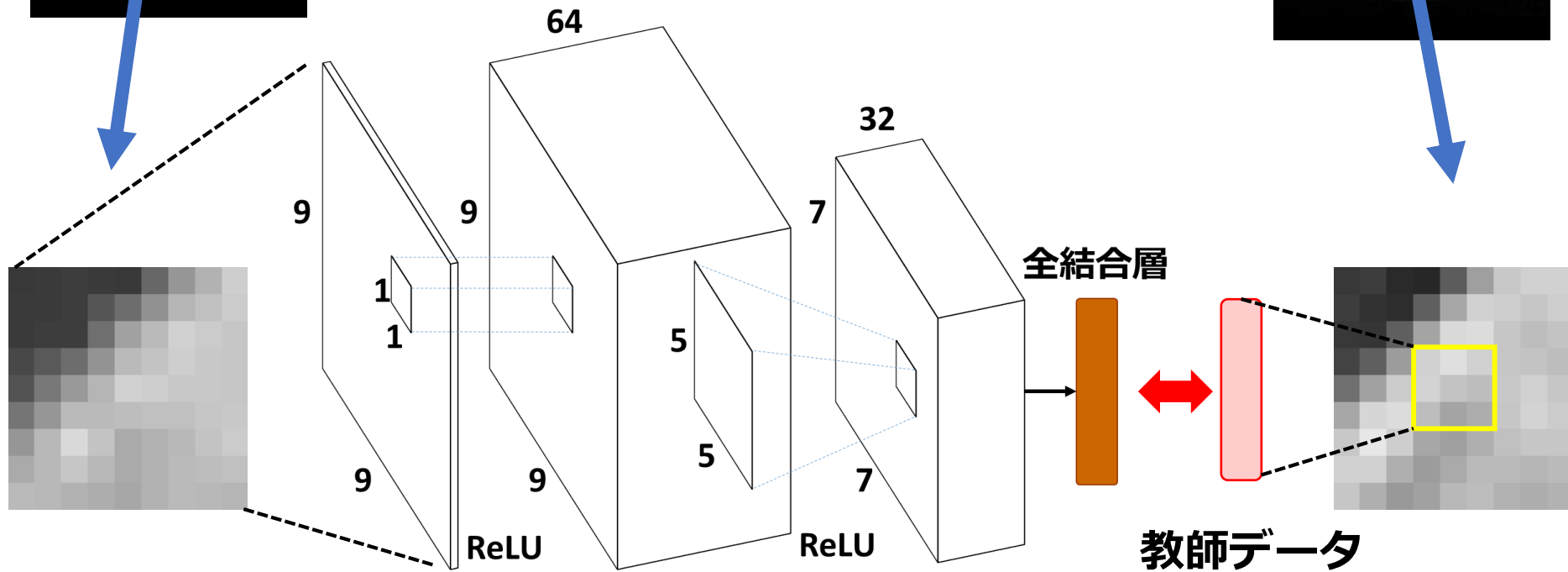
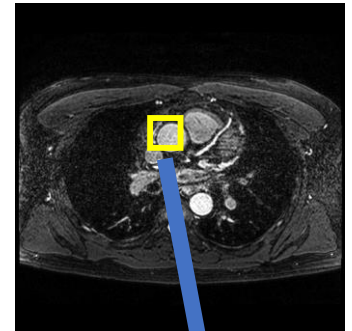
拡大画像



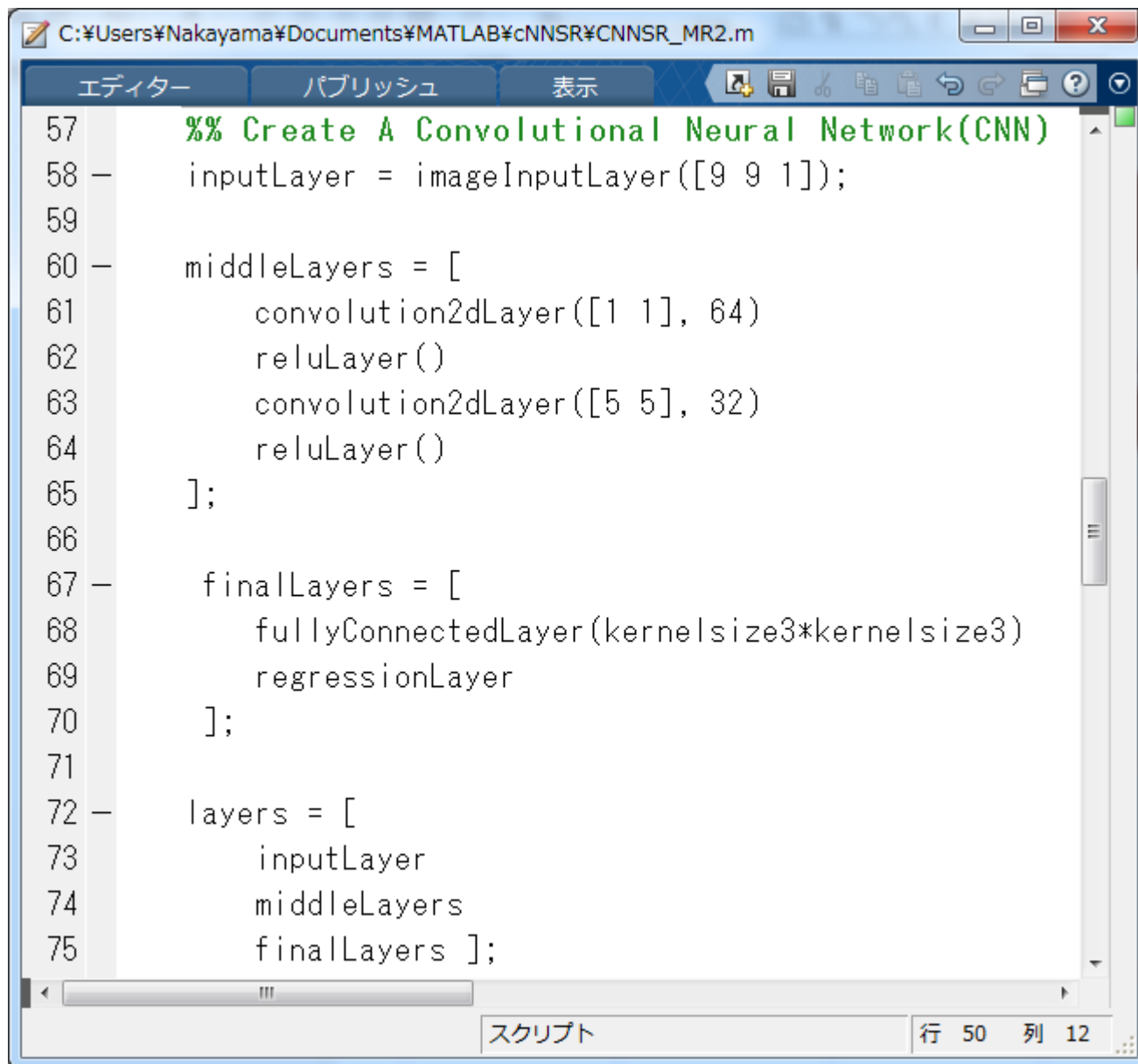
低解像画像



高解像画像



冠動脈MRAの高解像度化

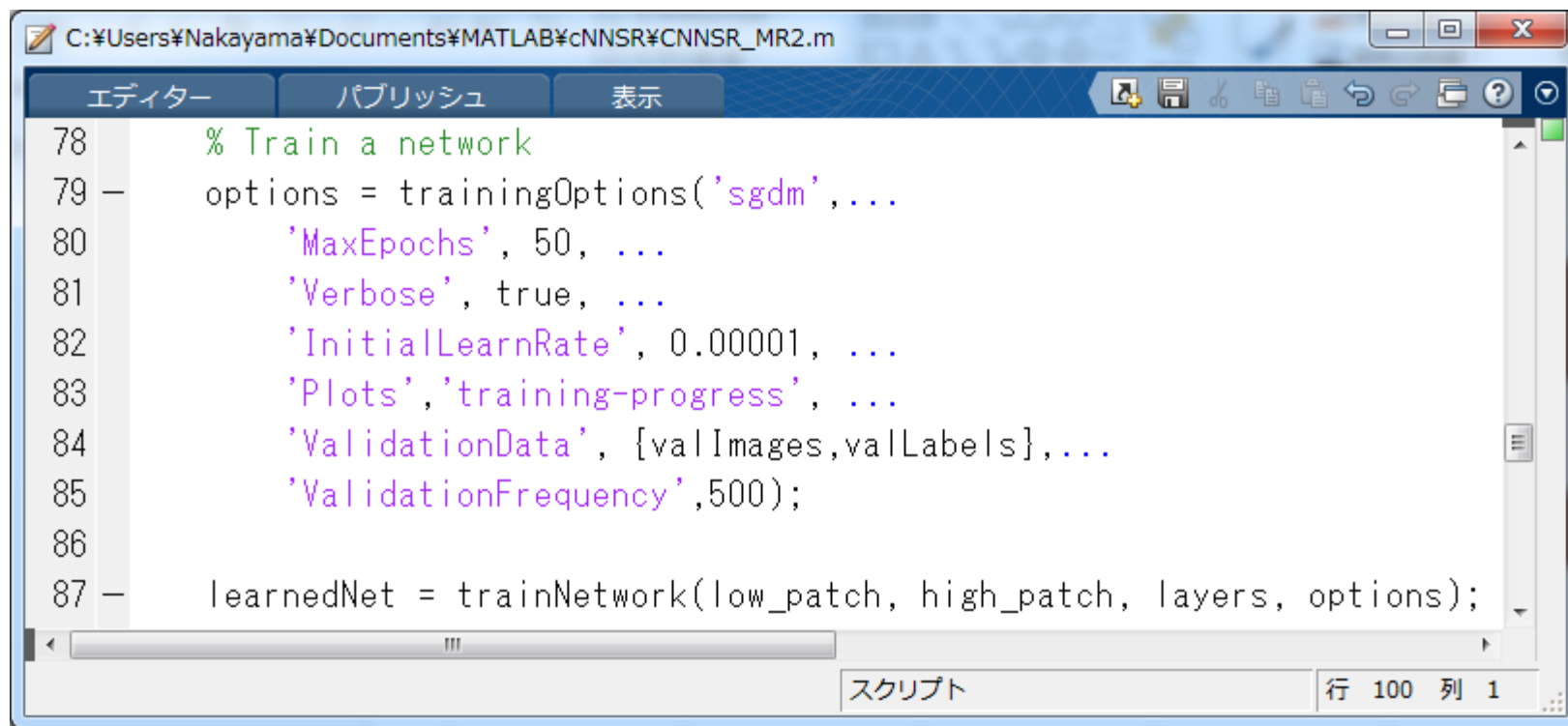


The image shows a MATLAB script editor window with the following code:

```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\cNNSR\CNNSR_MR2.m
エディター   パブリッシュ   表示
57   %% Create A Convolutional Neural Network(CNN)
58   inputLayer = imageInputLayer([9 9 1]);
59
60   middleLayers = [
61       convolution2dLayer([1 1], 64)
62       reluLayer()
63       convolution2dLayer([5 5], 32)
64       reluLayer()
65   ];
66
67   finalLayers = [
68       fullyConnectedLayer(kernelSize3*kernelSize3)
69       regressionLayer
70   ];
71
72   layers = [
73       inputLayer
74       middleLayers
75       finalLayers ];
```

スクリプト 行 50 列 12

冠動脈MRAの高解像度化

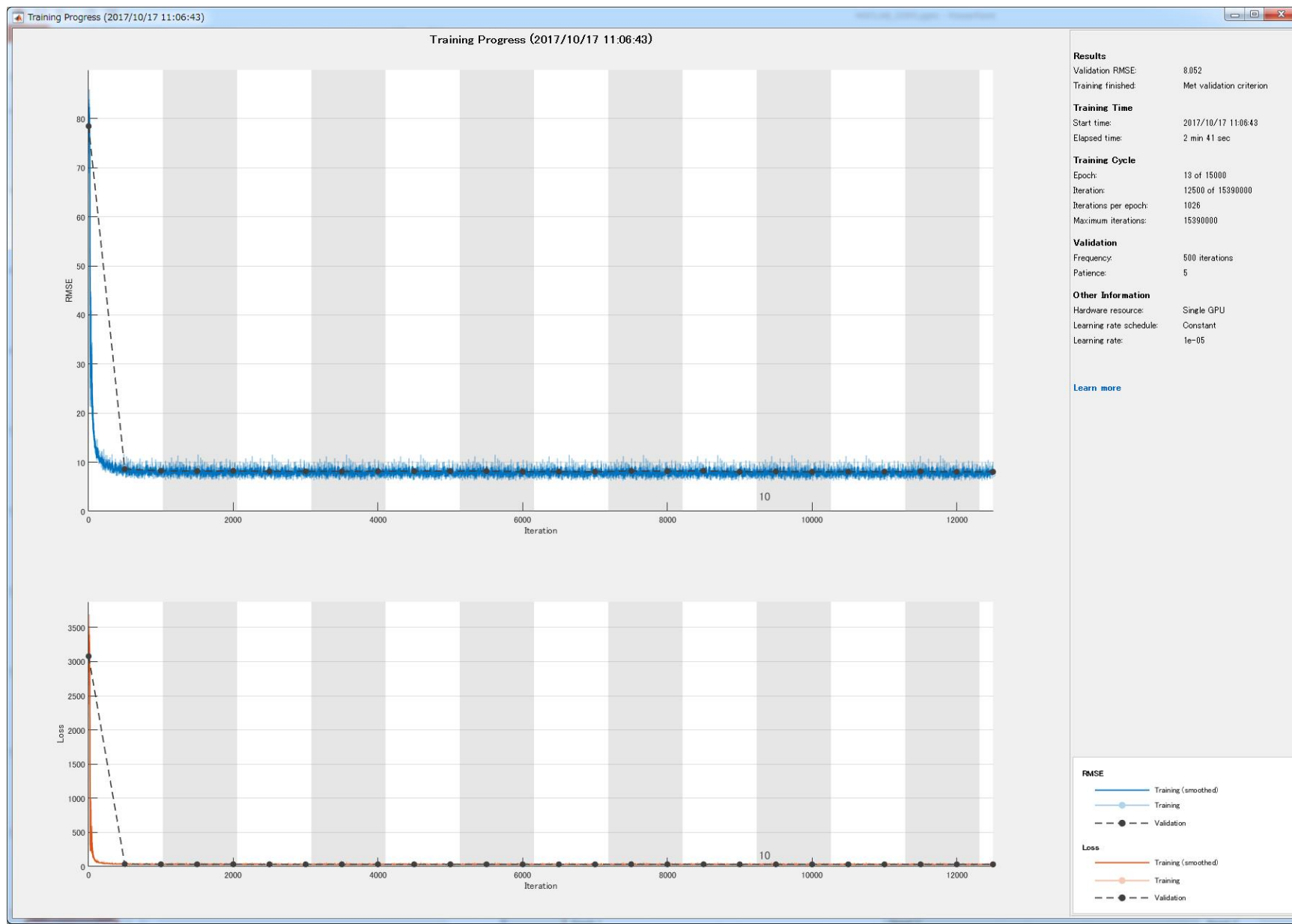


The image shows a MATLAB script editor window with the following code:

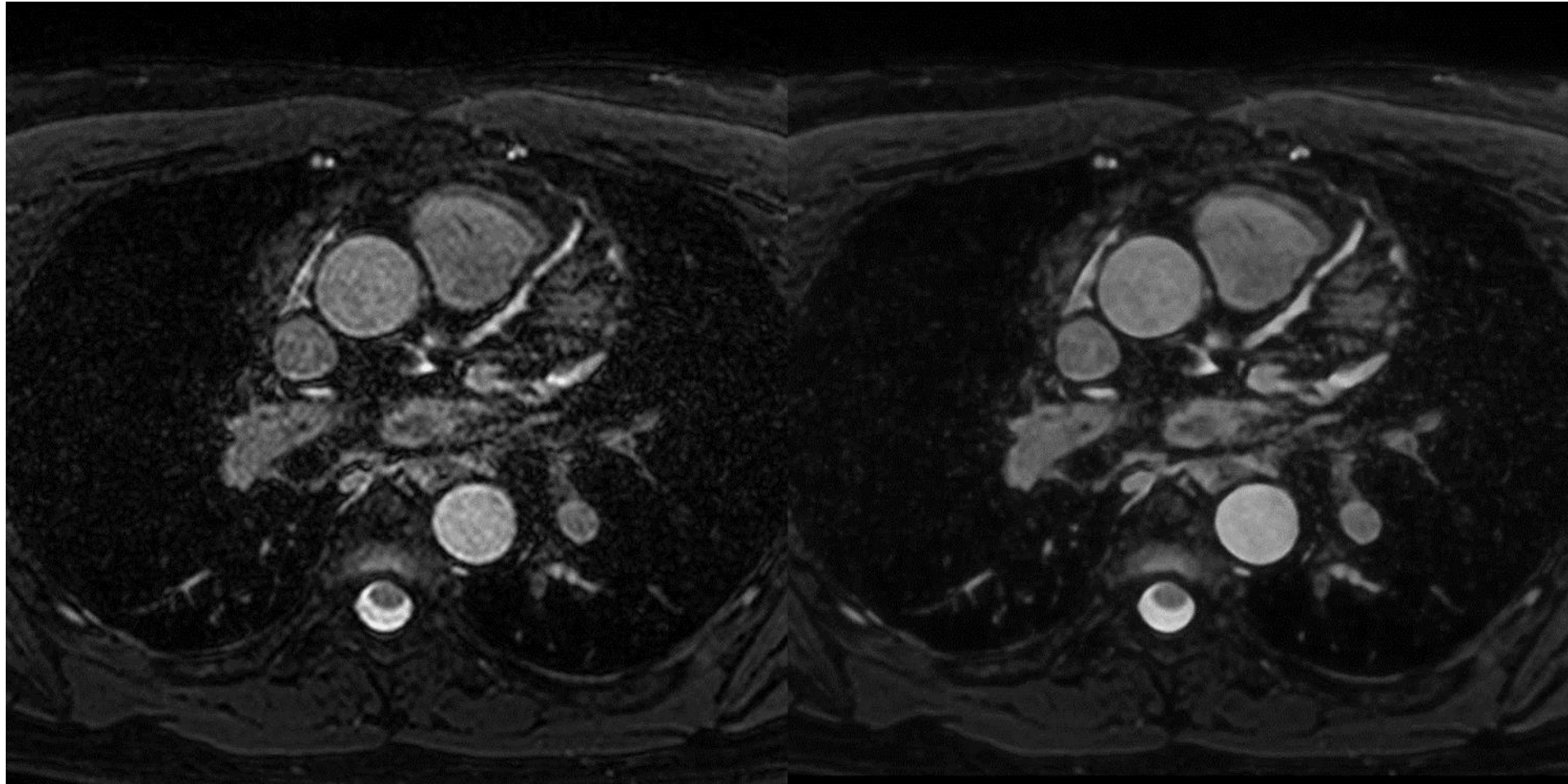
```
C:\Users\Nakayama\Documents\MATLAB\cNNSR\CNNSR_MR2.m
エディター   パブリッシュ   表示
78   % Train a network
79   options = trainingOptions('sgdm',...
80       'MaxEpochs', 50, ...
81       'Verbose', true, ...
82       'InitialLearnRate', 0.00001, ...
83       'Plots','training-progress', ...
84       'ValidationData', {valImages,valLabels},...
85       'ValidationFrequency',500);
86
87   learnedNet = trainNetwork(low_patch, high_patch, layers, options);
```

スクリプト 行 100 列 1

冠動脈MRAの高解像度化



冠動脈MRAの高解像度化



冠動脈MRA

高解像度化MRA

なぜMATLAB®か？

- **デメリット**

- ✓ **高額**

- ✓ **機能追加までの時間**

- **メリット**

- ✓ **再構成法や医療画像解析ソフトなどMATLABで開発**

- ✓ **開発環境の構築が容易**

- ✓ **プログラムが簡単**

- ✓ **アルゴリズムを理解できていなくても利用可**

- ✓ **File Exchangeなどユーザーコミュニティ**

- ✓ **テクニカルサポート**